

【基礎現代文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番	
	専修・科目	講義形態								
8202	001	系共通科目(科学哲学)	講義	1-4	2	前期	水3	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系1
8204	001	系共通科目(科学哲学)	講義	1-4	2	後期	水3	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系2
8206	001	系共通科目(科学史I)	講義	1-4	2	前期	水2	伊藤 和行		基礎現代文化学系3
8208	001	系共通科目(科学史II)	講義	1-4	2	後期	水2	伊藤 和行		基礎現代文化学系4
8902	001	系共通科目(メディア文化学)	講義a	1-4	2	後期	金3,金4	喜多千草		基礎現代文化学系5
8904	001	系共通科目(メディア文化学)	講義b	1-4	2	前期	金3,金4	杉本 淑彦,山登義明,福原伸治		基礎現代文化学系6
8407	001	系共通科目(現代史学)	講義I	2-4	2	後期	水3	小野沢 透		基礎現代文化学系7
8408	001	系共通科目(現代史学)	講義II	2-4	2	前期	水3	永原 陽子		基礎現代文化学系8
8644	001	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習II	2-4	2	前期	水4	小野沢 透		基礎現代文化学系9
8644	002	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習II	2-4	2	後期	水4	塩出 浩之		基礎現代文化学系10
8655	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	前期	火1	佐藤 夏樹	英書講読	基礎現代文化学系11
8655	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	後期	火1	成田 千尋	英書講読	基礎現代文化学系12
8655	003	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	前期	水1	徳永 悠	英書講読	基礎現代文化学系13
8655	004	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	後期	水1	徳永 悠	英書講読	基礎現代文化学系14
8656	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読II	2-4	2	前期	火1	藤井 俊之	独書講読	基礎現代文化学系15
8656	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読II	2-4	2	後期	火1	藤井 俊之	独書講読	基礎現代文化学系16
8657	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読III	2-4	2	前期	火2	田中 祐理子	仏書講読	基礎現代文化学系17
8657	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読III	2-4	2	後期	火2	田中 祐理子	仏書講読	基礎現代文化学系18
8658	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読IV	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	基礎現代文化学系19
8658	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読IV	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	基礎現代文化学系20
8659	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読V	2-4	2	前期	木2	宮 紀子	中書講読	基礎現代文化学系21
8659	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読V	2-4	2	後期	木2	宮 紀子	中書講読	基礎現代文化学系22
8661	001	系共通科目(基礎現代文化学)	講読VI	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	基礎現代文化学系23
8661	002	系共通科目(基礎現代文化学)	講読VI	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	基礎現代文化学系24
8231	001	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	前期	木2	伊藤 和行		基礎現代文化学系25
8231	002	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	後期	木2	伊藤 和行		基礎現代文化学系26
8231	003	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	前期	金2	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系27
8231	004	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	後期	金2	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系28
8231	006	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	後期	火3	瀬戸口 明久		基礎現代文化学系29
8231	007	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	前期	集中	隠岐 さや香		基礎現代文化学系30
8241	001	科学哲学科学史	演習	3-4	2	前期	火3	伊藤 和行		基礎現代文化学系31
8241	002	科学哲学科学史	演習	2-4	2	後期	火2	伊藤 和行		基礎現代文化学系32
8241	003	科学哲学科学史	演習	3-4	2	前期	金3	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系33
8241	004	科学哲学科学史	演習	2-4	2	後期	金3	伊勢田 哲治		基礎現代文化学系34
8241	005	科学哲学科学史	演習	2-4	2	前期	火5	矢田部 俊介		基礎現代文化学系35
8241	006	科学哲学科学史	演習	2-4	2	後期	火5	矢田部 俊介		基礎現代文化学系36
8243	001	科学哲学科学史	卒論演習I	4	2	前期	水4	伊藤 和行,伊勢田 哲治		基礎現代文化学系37
8247	001	科学哲学科学史	卒論演習II	4	2	後期	水4	伊藤 和行,伊勢田 哲治		基礎現代文化学系38
8345	001	二十世紀学	卒論演習	4	4	通年	金3,金4	杉本 淑彦		基礎現代文化学系39
8931	001	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	永原 陽子		基礎現代文化学系40
8931	002	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	藤原 辰史		基礎現代文化学系41
8931	003	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	藤原 辰史		基礎現代文化学系42
8931	004	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	佐藤 卓己		基礎現代文化学系43
8931	005	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	高木 博志		基礎現代文化学系44
8931	006	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	小関 隆		基礎現代文化学系45
8931	007	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	高木 博志		基礎現代文化学系46
8931	008	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	小関 隆		基礎現代文化学系47
8931	009	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	西山 伸		基礎現代文化学系48
8931	010	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	須田 千里		基礎現代文化学系49

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番	
	専修・科目	講義形態								
8931	011	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	須田 千里		基礎現代文化学系50
8931	012	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	庵途 由香		基礎現代文化学系51
8931	014	メディア文化学	特殊講義	1-4	2	前期	月2	石尾和哉		基礎現代文化学系52
8931	016	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	研谷 紀夫		基礎現代文化学系53
8931	019	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	村上 衛		基礎現代文化学系54
8931	020	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	村上 衛		基礎現代文化学系55
8931	021	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	長 志珠絵		基礎現代文化学系56
8931	022	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	塩出 浩之		基礎現代文化学系57
8931	023	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	塩出 浩之		基礎現代文化学系58
8931	024	メディア文化学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	石井 香江		基礎現代文化学系59
8941	001	メディア文化学	演習I	3-4	2	前期	水4	杉本 淑彦		基礎現代文化学系60
8941	002	メディア文化学	演習I	3-4	2	後期	水4	杉本 淑彦,喜多千草		基礎現代文化学系61
8944	001	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	月2	石川 禎浩		基礎現代文化学系62
8944	002	メディア文化学	演習II	3-4	2	後期	月2	石川 禎浩		基礎現代文化学系63
8944	003	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	集中	斎藤 理生		基礎現代文化学系64
8944	004	メディア文化学	演習II	3-4	2	後期	集中	斎藤 理生		基礎現代文化学系65
8944	005	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	火2	山本 昭宏		基礎現代文化学系66
8944	006	メディア文化学	演習II	3-4	2	後期	火2	山本 昭宏		基礎現代文化学系67
8944	007	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	月3	伊藤 遊		基礎現代文化学系68
8944	008	メディア文化学	演習II	2-4	2	前期	集中	森下 達		基礎現代文化学系69
8944	009	メディア文化学	演習II	1-3	2	後期	月3	伊藤 遊		基礎現代文化学系70
8944	010	メディア文化学	演習II	2-4	2	通年	火3	杉本 淑彦,滑田 教夫		基礎現代文化学系71
8944	011	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	月3	松田 利彦		基礎現代文化学系72
8944	012	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	木3	富永 望		基礎現代文化学系73
8944	013	メディア文化学	演習II	3-4	2	後期	木3	富永 望		基礎現代文化学系74
8944	014	メディア文化学	演習II	3-4	2	前期	火3	小野沢 透		基礎現代文化学系75
8944	015	メディア文化学	演習II	3-4	2	後期	火3	小野沢 透		基礎現代文化学系76
8944	016	メディア文化学	演習II	1-4	2	後期	金2	朴珍姫		基礎現代文化学系77
8944	017	メディア文化学	演習II	2-4	2	前期	月4	井上明人		基礎現代文化学系78
8945	001	メディア文化学	卒論演習	4	4	通年	金3,金4	杉本淑彦		基礎現代文化学系79
8433	001	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	永原 陽子		基礎現代文化学系80
8433	002	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	庵途 由香		基礎現代文化学系81
8433	003	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	石井 香江		基礎現代文化学系82
8433	004	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	藤原 辰史		基礎現代文化学系83
8433	005	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	藤原 辰史		基礎現代文化学系84
8433	006	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	高木 博志		基礎現代文化学系85
8433	007	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	高木 博志		基礎現代文化学系86
8433	008	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	村上 衛		基礎現代文化学系87
8433	009	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	村上 衛		基礎現代文化学系88
8433	010	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	西山 伸		基礎現代文化学系89
8433	011	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	佐藤 卓己		基礎現代文化学系90
8433	012	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	帯谷 知可		基礎現代文化学系91
8433	013	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	小関 隆		基礎現代文化学系92
8433	014	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	小関 隆		基礎現代文化学系93
8433	015	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	伊藤 順二		基礎現代文化学系94
8433	016	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	伊藤 順二		基礎現代文化学系95
8433	017	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	江田 憲治		基礎現代文化学系96
8433	018	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	江田 憲治		基礎現代文化学系97
8433	019	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	塩出 浩之		基礎現代文化学系98
8433	020	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	塩出 浩之		基礎現代文化学系99

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番	
	専修・科目	講義形態								
8433	021	現代史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	長 志珠絵		基礎現代文化学系100
8433	022	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	福家崇洋		基礎現代文化学系101
8433	023	現代史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	竹永三男		基礎現代文化学系102
8444	001	現代史学	演習IA	3-4	2	前期	火4	塩出 浩之		基礎現代文化学系103
8444	002	現代史学	演習IB	3-4	2	後期	火4	永原 陽子		基礎現代文化学系104
8448	001	現代史学	演習II	3-4	2	前期	月2	石川 禎浩		基礎現代文化学系105
8448	002	現代史学	演習II	3-4	2	後期	月2	石川 禎浩		基礎現代文化学系106
8448	003	現代史学	演習II	3-4	2	前期	火3	小野沢 透		基礎現代文化学系107
8448	004	現代史学	演習II	3-4	2	後期	火3	小野沢 透		基礎現代文化学系108
8448	005	現代史学	演習II	3-4	2	前期	木3	富永 望		基礎現代文化学系109
8448	006	現代史学	演習II	3-4	2	後期	木3	富永 望		基礎現代文化学系110
8448	007	現代史学	演習II	3-4	2	前期	月3	松田 利彦		基礎現代文化学系111
8448	008	現代史学	演習II	3-4	2	前期	火2	山本 昭宏		基礎現代文化学系112
8448	009	現代史学	演習II	3-4	2	後期	火2	山本 昭宏		基礎現代文化学系113
8448	010	現代史学	演習II	1-4	2	後期	金2	朴 珍姫		基礎現代文化学系114
8452	001	現代史学	演習IIIA	3-4	2	前期	火5	小野沢 透,永原 陽子,塩出 浩之		基礎現代文化学系115
8452	002	現代史学	演習IIIB	3-4	2	後期	火5	小野沢 透,永原 陽子,塩出 浩之		基礎現代文化学系116

基礎現代文化学系1

科目ナンバリング		U-LET32 28202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(上)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。											
[到達目標]											
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 科学とは何か 2 科学的推論 3 個別科学における科学的推論 4 科学的説明 5 個別科学における科学的説明 フィードバックについては授業内で指示する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30を予定 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系2

科目ナンバリング		U-LET32 28204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(下)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。											
[到達目標]											
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 实在論と反实在論 2 個別科学における实在論問題 3 科学の変化と科学革命 4 個別科学における変化の問題 5 科学と価値 フィードバックについては授業内で指示する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30を予定 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系3

科目ナンバリング		U-LET32 18206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門 1									
【授業の概要・目的】											
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般にみなされている。しかし人間の営みである以上科学も歴史のなかで誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。</p> <p>近代科学は、17世紀西欧社会において誕生したと考えられている。近世日本（江戸時代）における自然研究および近代日本（明治時代）への西欧科学の導入を、当時の歴史的な文脈の中で理解することは、現代科学の理解にとっても重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義を通じて、科学とは何かという問題を歴史的な側面から考察する視点を養い、江戸時代以降の日本における西欧科学についての理解をより深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目に従って進める予定である。 それぞれについて1 - 3週程度で講ずる。</p> <p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 西欧における科学の誕生と発展</p> <p>(3) 江戸時代の科学</p> <p>1.天文学</p> <p>2.医学</p> <p>3.蘭学と洋学</p> <p>(4) 近代日本の科学</p> <p>1.明治維新前後の科学</p> <p>2.明治期日本の西洋科学の導入</p> <p>3.大正期日本における科学の定着</p> <p>フィードバックについては、授業内に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
中間レポート（50％）と期末試験（50％）によって評価する。評価は到達目標の達成度に基づく。											
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に参考資料を配付するので、予習・復習においては、それらを精読すること。
また授業の際に参考文献の一覧を配布します

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系4

科目ナンバリング		U-LET32 18208 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門2									
【授業の概要・目的】											
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般にみなされている。しかし人間の営みである以上科学も歴史のなかで誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。</p> <p>とりわけ近代科学は17世紀西欧社会において誕生したと考えられ、「科学革命」と呼ばれている。「科学革命」を当時の歴史的コンテキストの中で科学的活動を理解することは、現代科学の理解にとっても重要である。</p>											
【到達目標】											
本講義を通じて、科学とは何かという問題を歴史的な側面から考察する視点を養い、17世紀「科学革命」を中心に近代科学の誕生過程についての歴史的理解をより深める。											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、西洋世界における科学の歩みを、古代ギリシアから17世紀「科学革命」までたどる。具体的には、近代科学誕生の際に中心となった天文学と運動論の歴史的変遷を考察する。</p> <p>次のような計画に従って講義を進める予定である。</p> <p>それぞれについて1 - 3週程度で講ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 天文学の歴史 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 天体の運動について 2-2. 古代の天文学：地球中心説（プトレマイオスの理論） 2-3. 近代の天文学：太陽中心説（コペルニクスからガリレオへ） 3. 運動論の歴史 <ol style="list-style-type: none"> 3-1. 古代・中世の運動論：アリストテレスと中世の哲学者たち 3-2. 近代の運動論：ルネサンスの技術者とガリレオ 4. 17世紀科学革命：ニュートンと近代力学の誕生 <p>フィードバックについては、授業内に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
中間レポート（50％）と期末試験（50％）による。 評価は到達目標の達成度に基づく。											
【教科書】											
使用しない											
-----系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に参考資料を配付するので、予習・復習においては、それらを精読すること。
また授業の際に参考文献一覧を配布します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系5

科目ナンバリング		U-LET37 18902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義 a) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究入門									
【授業の概要・目的】											
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとするれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学の視点を身につけることによって、歴史を通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 課題あたり 1 ~ 3 週 (隔週で週 2 コマ) を使って授業をする。</p> <p>* メディア文化学とは : 「 ネット文化 」 を例に</p> <p>* 広告に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* ポピュラー音楽に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* テレビ・ラジオ番組に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* 写真に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* コンテンツの流通に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* 最終回 : フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(ディスカッションへの積極的参加・小レポートの内容など)											
----- 系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)へ続く -----											

系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読・観覧すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系6

科目ナンバリング		U-LET37 18904 LJ36									
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義b) Media and Culture Studies (Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦 テレビプロデューサー 山登 義明 BuzzFeed Japan 動画統括部長 福原 伸治				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	メディア文化学研究										
【授業の概要・目的】											
現代を特徴づける民衆文化（TV番組と映画）をおもに取り上げ、メディア文化の現場（地上波テレビとネット動画）における状況の変化について考察し、また、映画を中心にカルチュラル・スタディーズのさまざまな方法論を講述する。											
【到達目標】											
テレビの終焉とネット動画の本格的な到来という変化の時期にある今日において、フェイクニュースやpost-truthとどう向き合うのか、その「新しい時代のリテラシー」を身につける。 カルチュラル・スタディーズについて、その研究史への理解を深め、そのうえで、従来の研究が抱える問題点を見つけだす力を養う。											
【授業計画と内容】											
1 課題あたり1～3週（隔週で週2コマ）の授業をする。 * オリエンタリズム論(杉本) * テレビの発展と衰退(福原) * 新しいメディアの台頭(福原) * これからのメディアの姿(福原) * テレビドキュメンタリー論入門(山登) * テレビドキュメンタリーの過去・現在・未来(山登) 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(ディスカッションへの参加)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業で紹介する研究書と映画を、授業後に閲読・視聴すること。 (その他(オフィスアワー等)) TV番組と配信動画、映画(実写とアニメ)を幅広く視聴するように努めてください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系7

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的な位置づけを理解する。 ・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを扱う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？ 2. 近現代世界史という視点 3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり 4. 長い19世紀 資本の時代 5. 長い19世紀 帝国の時代 6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命 7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦 8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」 8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界 10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉 11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉 12. 21世紀 ワシントン・コンセンサスの時代 13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代 14. アメリカ外交史から見た現代史 15. まとめ、フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末試験											
----- 系共通科目(現代史学)(講義I) (2)へ続く -----											

系共通科目(現代史学)(講義I) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系8

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史概論 1900年の世界史									
【授業の概要・目的】											
現代世界の起点、すなわち現代世界の抱える問題が基本的に出揃った時代として、1900年を位置づけることができる。1900年の世界がどのようなものであったのかを概観することを通じて、20世紀から21世紀の今日に至る「現代」の世界の特質を歴史的に考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1900年の世界を個別地域の歴史の総和としてではなく、その同時代性・連鎖性においてとらえる。 ・ 1900年の世界の理解を通じて、「現代」とはどのような時代であるか歴史的に考察する力をもつ。 											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 世界史の方法 2 同時代の三つの戦争 3 暴力の連鎖 4 隔離と絶滅の思想 5 参政権運動と社会浄化運動 6 植民地における参政権 7 ペストの連鎖 8 ペストと隔離 9 中国系移民 10 中国系移民とインド系移民 11 アジア系移民とその規制 12 「白人奴隷」問題と女性移民 13 性の売買と農村=都市関係 14 社会の人種化とその連鎖 15 まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末の試験											
-----系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く-----											

系共通科目(現代史学)(講義II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系9

科目ナンバリング		U-LET45 28644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		現代文化学（基礎演習II） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代文化学研究入門									
【授業の概要・目的】											
現代史の研究に関連するテキストを輪読し、現代社会の文化、歴史に関する主要な問題につき理解を深め、あわせて基礎的な研究の方法を学ぶ。											
【到達目標】											
現代史、国際関係史など、現代の人文・社会科学に関連する重要なテーマについて、基本的な学説を理解し、それらの異同や相互関係を説明できるようになる。また、そのことを通じて、各自の研究テーマに即して学説を整理して吸収する基礎的な方法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
現代史に関連する文献を選読し、基礎的な学説や研究方法を学ぶとともに、現代の主要問題について考察する。取り上げる予定の文献の一部は、下記のとおり。 ジョージ・ケナン『アメリカ外交50年』（岩波書店） 入江昭『二十世紀の戦争と平和』増補版（東京大学出版会） ジョセフ・S・ナイ、D・A・ウェルチ『国際紛争：理論と歴史』（有斐閣） エリック・ホブズボーム『20世紀の歴史』（ちくま学芸文庫） 初回の授業で、報告の担当者を決定するので、受講希望者は必ず出席すること。その後、14回の授業で文献を読み進める。											
【履修要件】											
現代史学、メディア文化学専修志望の学生は2回生時にこの授業を受講すること。履修しない場合には、両専修の演習IIIいずれかで単位を代替可。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
報告を担当した書籍に関するレポートの提出を課す。 成績は、平常点とレポートによって総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 初回授業で文献リストを配布する。文献は、各自準備すること。											
----- 現代文化学（基礎演習II）(2)へ続く -----											

現代文化学（基礎演習II）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で取り上げるテキストを、全員が必ず予め読了しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

初回に文献リストを配布し、報告者を決定する。ディスカッション中心の授業なので、毎回、全受講者が当該文献を読んでおくことが必須条件になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系10

科目ナンバリング		U-LET45 28644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		現代文化学（基礎演習II） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代文化学研究入門									
[授業の概要・目的]											
メディア文化学と現代史学の研究に関連する基礎的な文献を輪読し、現代社会の文化、歴史に関する主要な問題につき理解を深め、あわせて基礎的な研究方法を学ぶ。											
[到達目標]											
現代史、世界システム論、ナショナリズム論など、現代の人文・社会科学に関連する重要なテーマについて、基本的な学説や論点を理解する。さらに各自の関心に即して、具体的な問いを立てて調査・研究し、報告・執筆する基礎的な方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
世界システム論、ナショナリズム論、日本近現代史などに関する基本文献を輪読し、現代世界の重要問題について考察するとともに、調査・報告・論文執筆など基礎的な研究方法を学ぶ。取り上げる文献の一部は下記の通り（変更の場合あり）。											
I. ウォーラステイン『入門・世界システム分析』（藤原書店） B. アンダーソン『定本 想像の共同体』（書籍工房早山）											
初回の授業で報告の担当者を決定するので、受講希望者は必ず出席すること。その後、14回の授業で輪読と研究報告を行う。											
[履修要件]											
メディア文化学、現代史学専修志望の学生は2回生時にこの授業を受講すること。履修しない場合には、両専修の演習 いずれかで単位を代替可。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点とレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する 初回授業で文献リストを配布する。文献は各自で入手すること。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
テキストは全員が必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系11

科目ナンバリング		U-LET45 28655 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 佐藤 夏樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、Danna R. Gabaccia and Vicky Ruiz ed., <i>American Dreaming, Global Realities</i>(University of Illinois Press, 2006)を読む。この書は、トランスナショナルな視点から、アメリカ移民史を再考する論文集である。従来の受け入れ社会中心で一国的な移民史において語られてきた「同化の物語」からは見えてこなかったアメリカ社会における移民たちの生活に関する十分な知見を得ることを目的として、本書を読解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の文献を正確に読解できるようになる。 ・ 歴史学分野での英語学術文献を読み解ける力を習得する。 ・ 近年流行しているトランスナショナルな歴史学の手法や知識を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス 教科書のおおまかな内容や、授業の進め方、予習の仕方、評価方法等について説明する。</p> <p>第2～15回：教科書の精読</p> <p>本書は全22章から構成されているが、そのうちの5つほどの章を選んで読む。1回の授業で章の半分（約10頁）程度進む予定であるが、受講者の英語力等にもよる。 授業は、毎回複数の担当者をその場で指名し、担当した部分を段落ごとに要約し、発表してもらう形で進める。発表方法の詳細については、授業内で説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（発表回数、発表内容）で評価するが、期末にレポートあるいは試験を課す場合がある。											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読Ⅰ)(2)

[教科書]

Danna R. Gabaccia and Vicky Ruiz 『American Dreaming, Global Realities Rethinking U.S. Immigration History』 (University of Illinois Press) ISBN:978-0-252-03064-2 (担当教員がコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

事前に予告された範囲の予習を必ず済ませておくこと。また、関連事項についての参考文献を読み、積極的に自学自習すること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系12

科目ナンバリング		U-LET45 28655 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 成田 千尋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>Thomas U. Berger, "War, guilt, and world politics after World War II"(Cambridge University Press, 2012)の第一章"Politics and Memory in an Age of Apology"及び第四章"Japan: The Model Impenitent?"を読む。本書は第二次世界大戦後のドイツ、オーストリア、日本を事例とし、各国政府が戦争責任といかに向き合ってきたかということ、各地域の政治状況も踏まえつつ考察するものである。この授業では、著者が歴史問題を考察する際に提示する分析概念について述べた第一章と、1990年代以前の日本の事例を分析した第四章を取り上げる。このことを通じて、英語の読解能力を身に付けるとともに、ヨーロッパとの比較という観点から、日本の戦後史について新たな知見を得ることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
英語の学術文献を正確に理解するための読解能力を身に付けるとともに、日本の戦後史について、ドイツ・オーストリアの事例との比較から理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス 教科書のおおまかな内容、授業の進め方、予習の仕方、評価方法などについて説明する。</p> <p>第2～14回：文献の精読 第一章の初めから、毎回各受講者が順番に一文ずつ訳読するかたちで読解を進める。第四章については、第一章の訳の進度により、一部のみ訳読する場合がある。</p> <p>第15回：授業まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（80％）、学期末の小レポート（20％）</p> <p>小レポートの内容については、授業中に説明する。</p>											
-----系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ）(2)へ続く-----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読Ⅰ)(2)

【教科書】

Thomas U. Berger 『War, guilt, and world politics after World War II』 (Cambridge University Press)
ISBN:9781107021600
該当範囲のコピーを初回授業時に配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業の前に、該当範囲のテキストを予習しておくこと。該当範囲は授業中に指定する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系13

科目ナンバリング		U-LET45 28655 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 徳永 悠			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>今日、国境を越えた人の移動はグローバル化の中でますます活発化している。日本社会でも外国籍の人々は1990年の107万人から2018年の263万人と二倍以上に増えており、移民とその子孫が日本各地で経済や文化の発展に貢献している。一方で、彼らに対する偏見や差別、格差も残っている。この授業では、Khalid Koser, <i>International Migration: A Very Short Introduction</i>, 2nd edition (2016)とSucheng Chan, <i>Asian Americans: An Interpretive History</i> (1991)の一部を読む。19世紀後半～20世紀前半にアメリカ合衆国に渡ったアジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史に関する英語文献を読み解きながら、国境を越えて人が移動する理由、移民の生活や権利、移民に対する差別、移民に関する政策など現代においても重要なテーマについて英語で理解する力を伸ばすことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1) アジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史の理解に必要な英語読解力を習得する、2) 現代の移民の理解に必要な英語読解力を習得する、3) そのうえで、移民に関する議論について歴史的に考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業概要説明 / なぜ移民について学ぶのか 第2～4回：KoserのChapter 1, 2, 3（計36ページ）を読み、現代の移民の状況について概観する。 第5～14回：ChanのChapter 1, 2, 3, 6, 7（計99ページ）を読み、アメリカ合衆国に渡ったアジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史について学ぶ。 第15回：授業まとめ</p> <p>毎週、授業までに該当範囲のテキスト（毎回10ページ程度）を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」（A4・1枚）を授業開始時に提出する。授業中は15人程度の受講者に、自分が翻訳した段落について発表してもらおう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

翻訳レポート：78点（13回×6点）

期末レポート：22点（1回×22点）

到達目標の達成度に基づき評価する。担当教員への事前の連絡なしに遅刻また欠席し、翻訳レポートの提出が遅れた場合は減点対象とする。期末レポートについては学期中に説明する。

[教科書]

Khalid Koser 『International Migration: A Very Short Introduction』（Oxford University Press, 2016）

Sucheng Chan 『Asian Americans: An Interpretive History』（Twayne Publishers, 1991）

該当範囲のテキストは担当教員が準備して授業中に配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎週、授業までに事前に伝えた該当範囲のテキスト（毎回10ページ程度）を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」（A4・1枚）を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員の連絡先：tokunaga@zinbun.kyoto-u.ac.jp

担当教員の研究室：人文科学研究所 4階 4 2 2号室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系14

科目ナンバリング		U-LET45 28655 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 徳永 悠			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>今日のアメリカ合衆国社会を深く理解するうえで、ラテンアメリカに出自を持つ住民、いわゆるラティーノの歴史を学ぶことは不可欠な要素である。大統領選挙や連邦議会選挙においても、ラテンアメリカから来る人々に対する移民政策は中心議題の一つである。ラティーノの人口は2017年の推定値で、総人口の18.1%、西海岸のカリフォルニア州では州人口の39.1%を占め、アメリカ経済と文化に大きく貢献している。一方で、彼らに対する偏見や差別、格差も根強い。この授業では、Juan Gonzalez, Harvest of Empire: A History of Latinos in America, revised edition (2011)を読む。16世紀から今日に至るまでのアメリカとラテンアメリカの関係、そして、プエルトリコやメキシコ、キューバなど様々な地域や国からの移民を含むラティーノの歴史に関する英語文献を読み解きながら、国境を越えて人が移動する理由、移民の生活や権利、移民に対する差別、移民に関する政策など現代においても重要なテーマについて英語で理解する力を伸ばすことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 在米ラティーノの歴史の理解に必要な英語読解力を習得する、2) 現代の移民の理解に必要な英語読解力を習得する、3) そのうえで、移民に関する議論について歴史的に考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業概要説明 / なぜラティーノについて学ぶのか 第2～4回：GonzalezのChapter 1, 2, 3（計76ページ）を読み、16世紀から20世紀までのアメリカとラテンアメリカの歴史的な関係について概観する。 第5～9回：GonzalezのChapter 4, 5, 6, 7, 8, 9（計83ページ）を読み、20世紀を中心にプエルトリコ、メキシコ、キューバ、ドミニカ共和国、コロンビア、そして中央アメリカ諸国からアメリカに移り住んだ人々の歴史について理解を深める。 第10～14回：GonzalezのChapter 10, 11, 12, 13, 14（計139ページ）を読み、今日のアメリカ社会におけるラティーノの状況について考える。 第15回：授業まとめ</p> <p>毎週、授業までに該当範囲のテキスト（毎回平均20ページ程度）を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」（A4・1枚）を授業開始時に提出する。授業中は15人程度の受講者に、自分が翻訳した段落について発表してもらう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>翻訳レポート：78点（13回×6点） 期末レポート：22点（1回×22点）</p>											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅰ）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読Ⅰ)(2)

到達目標の達成度に基づき評価する。担当教員への事前の連絡なしに遅刻また欠席し、翻訳レポートの提出が遅れた場合は減点対象とする。期末レポートについては学期中に説明する。

[教科書]

Juan Gonzalez 『Harvest of Empire: A History of Latinos in America, revised edition』（Penguin Books, 2011）

該当範囲のテキストは担当教員が準備して授業中に配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎週、授業までに事前に伝えた該当範囲のテキスト（毎回平均20ページ程度）を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」（A4・1枚）を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員の連絡先：tokunaga@zinbun.kyoto-u.ac.jp

担当教員の研究室：人文科学研究所4階422号室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系15

科目ナンバリング		U-LET45 28656 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読II） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤井 俊之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 I									
【授業の概要・目的】											
Illouz, Eva: Gef#252le in Zeiten des Kapitalismus. Frank Furt am Main 2007. を読む。											
ある人物の語る歴史がどのようなものであるかは、語り手である当人が現代をどのように考えているかに左右される。現代を資本主義の時代と規定する本書の著者エヴァ・イルーズは、人間の歴史を感情という側面から照らしたそうとする。通例、感情という心的能力は理性的判断に劣るものとされ、社会生活においてはその抑制が求められる。その一方で、人々の喜怒哀楽が商業的なマーケティングの対象にされているのが現代であるとする著者は、本書において、客観性を重んじる態度の裏面で軽視されてきた感情という要素に焦点を合わせている。感情は単に個人的、主観的なものではなく、そもそも社会的、客観的な側面を備えている。しかしだからこそ、感情が売り物となった現代において、商品としての感情をひとは自分のものにできないという逆説が生じる。この逆説が生じてきた歴史的経緯を解き明かそうとする本書を読み解くことで、現代において歴史を語ることの意味について考えたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読II）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系16

科目ナンバリング		U-LET45 28656 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）(講読II) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤井 俊之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 II									
【授業の概要・目的】											
Adorno, Theodor W.: Gesellschaft.(1965) In: Gesammelte Schriften. Bd. 8, Frankfurt am Main 2003, S. 9-19. を読む。											
人間の歴史は共同体の成立とともに始まる。神話や物語形式に託して世界の成り立ちを語ろうとする人々の行為は、社会がその構成員である個々人を媒体にして自らの記憶を時間の継起のなかで伝達しようとする試みであり、歴史もまたそうした営みから生じた。しかし、歴史が社会の記憶であるとして、それによって自己の同一性を確立する社会の正体を、歴史を読み解くことで理解できるだろうか。そもそも、社会の記憶として成立した歴史とは、「社会が自分自身について語る」という自己言及の試みであり、その意味で社会の客観的な記述ではありえない。つまり、歴史を語ることの困難は、社会が自らを省みることの困難に起因するのだと言える。授業で取り上げるアドルノの論文「社会Gesellschaft」は、ナチスを体験した第二次大戦後のドイツで書かれたものであり、まさに上で述べた社会の自己省察の可能性を問うている。この点を踏まえ、本論文の精読を通じては、社会を構成する個人の意味についても考えたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを訳読にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）(講読II)(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読II)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系17

科目ナンバリング		U-LET45 28657 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読III） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 田中 祐理子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
この授業ではフランスの政治哲学者クロード・ルフォールの論集（Claude Lefort, Essais sur le politique, 1986）から、冒頭の論考「民主主義という問題」をとりあげて精読する。授業では毎回学生数名が訳出を分担し、全員で訳と内容を検討しながら読み進める。フランス語で書かれた専門的研究論文を読む基礎的な読解力を身につけるとともに、フランス革命研究の基本的語彙・問題設定を知ることを目指す。導入および授業内で論考の背景を学ぶ機会を作り、ルフォールの議論の全体像にも触れながら、フランス史と近代ヨーロッパ型政治思想との関わりについても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・近代フランス史および社会・政治論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-3回 テキストと著者Lefortに関する導入的紹介 第4-14回 担当者によるテキスト訳出と会読 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。初学者は授業初回に申し出ること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での訳出担当と期末レポート（各50%）で評価する。											
[教科書]											
授業でテキストを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
各回の該当箇所を事前に確認するので、全員が出席時にはテキストを読んでいること。											
（その他（オフィスアワー等））											
外国語修習を第一の目的とした授業とするので、継続的・能動的な授業参加に努めること。質問は適宜受けつけるので、積極的に教師を活用すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系18

科目ナンバリング		U-LET45 28657 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読III） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 田中 祐理子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ポーランドの思想家ブロニスラフ・バチコの論集（Bronislaw Baczko, Politiques de la Révolution française, 2008）から、冒頭の論考「民主主義の諸制度と革命の衝撃」をとりあげて精読する。授業では毎回学生数名が訳出を担当し、全員で訳と内容を検討しながら読み進める。フランス語で書かれた専門的研究論文を読む基礎的な読解力を身につけるとともに、フランス革命研究の問題設定と、現代政治・社会的諸状況との歴史的関連を考察することに努める。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・近代フランス史および社会・政治論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-3回 テクストと著者Baczkoに関する導入的紹介 第4-14回 担当者によるテキスト訳出と会読 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。初学者は授業初回に申し出ること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での訳出担当と期末レポート（各50%）で評価する。											
[教科書]											
授業でテキストを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
各回の該当箇所を事前に確認するので、全員が出席時にはテキストを読んでいること。											
（その他（オフィスアワー等））											
外国語修習を第一の目的とした授業とするので、継続的・能動的な授業参加に努めること。質問は適宜受けつけるので、積極的に教師を活用すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系19

科目ナンバリング		U-LET45 28658 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読IV） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の評論の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および特に評論的・論文的な文章の読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下をテキストとする予定である。											
(1866)											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点（予習の精度）によって評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 露和辞典は研究社出版のものを所持していることが望ましい。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系20

科目ナンバリング		U-LET45 28658 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読IV） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 2									
【授業の概要・目的】											
19世紀の評論の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および特に評論的・論文的な文章の読解力を向上させる。											
【到達目標】											
19世紀のロシア語の文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、以下をテキストとする予定である。											
(1866)											
前期不受講者にも不都合のないよう、前半の要約を初回講義時に配布する。 ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点（予習の精度）によって評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系21

科目ナンバリング		U-LET45 28659 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅴ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 宮 紀子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>民国期から現代にいたる中国のさまざまな形態の文章を、正確かつ迅速に読解・処理し、原文に相応しい文体で翻訳する能力を身につけることを目標とする授業である。マンガにはじまり、ショート・ショート、新聞やインターネット上の各種記事、小説、歌謡曲、戯曲、フィールド調査の報告、学術論文へと、徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な中国文化と社会の実態を掘削し理解してゆくための手掛かりを提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現代中国語で書かれた文章を正確に一定の速度で読解できるようになる。その文章がいかなる背景のもとに書かれたか、さまざまな道具を用いて調べる技術も身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回は、開始時点での各人のレベルを把握するため、その場で配布資料を音読・翻訳してもらう。第二回から第十五回までは、さまざまな媒体・形式の現代中国語文を、それぞれの分量に照らして適当な回数に割り振って読んでゆく。受講者は毎回一度は現代中国語で読み上げ、日本語訳せねばならない。受講者の専攻、人数、水準に配慮しながら、できるだけ多様な文章を紹介する。</p>											
【履修要件】											
<p>独学でもかまわないので、初級中国語の知識を有すること。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する）</p>											
【教科書】											
<p>授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。インターネット上にも掲示する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅴ）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読Ⅴ)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

中国語初級終了段階では、文章を読み上げようとする、ほとんど一文字一文字ピンインを調べねばならないことが予想される。徹夜になることもあり、翻訳するよりも辛い単純作業だが、何度も同じ字を引いては忘れ、また引いてという繰り返しによって、次第に習得される。誰もが通る道なので、あきらめないでほしい。授業のほかにラジオやテレビの講座、字幕ドラマ等の活用を推奨する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系22

科目ナンバリング		U-LET45 28659 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読Ⅴ） Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 宮 紀子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
<p>民国期から現代にいたる中国のさまざまな形態の文章を、正確かつ迅速に読解・処理し、原文に相応しい文体で翻訳する能力を身につけることを目標とする授業である。マンガにはじまり、ショート・ショート、新聞やインターネット上の各種記事、小説、歌謡曲、戯曲、フィールド調査の報告、学術論文へと、徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な中国文化と社会の実態を掘削し理解してゆくための手掛かりを提供したい。</p>											
[到達目標]											
<p>現代中国語で書かれた文章を正確に一定の速度で読解できるようになる。その文章がいかなる背景のもとに書かれたか、さまざまな道具を用いて調べる技術も身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>さまざまな媒体・形式の現代中国語文を、それぞれの分量に照らして、全十五回のなかで、複数の資料を読むよう、適当な回数に割り振って読んでゆく。初回に各人のレベルを把握するために、用意した配布物をその場で音読・翻訳してもらう。受講者は毎回一度は現代中国語で読み上げ、日本語訳せねばならない。受講者の専攻、人数、レベルに配慮しながら、できるだけ多様な文章を紹介する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する）											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>前期と後期で取り上げる文章は異なるので、後期のみの受講も認める。ただし、中国語に苦手意識があるようであれば、まず前期に受講することを推奨する。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

基礎現代文化学系23

科目ナンバリング		U-LET45 28661 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読VI） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史概説講読（前期）									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colarizziの“Storia del Novecento italiano”の第1章を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア現代史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
<p>初回（イントロダクション）</p> <p>授業の進め方、小テスト、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を紹介し</p> <p>ます。また第一章の冒頭部分を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を確認する予定です。</p> <p>2回～14回</p> <p>必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テストをもとに評価します。											
-----系共通科目（基礎現代文化学）（講読VI）（2）へ続く-----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読VI)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習がすべての授業です。イタリア語原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握するよう努めてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを確認することが肝要です。また小テストでチェックされたところも見直しておきましょう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系24

科目ナンバリング		U-LET45 28661 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目（基礎現代文化学）（講読VI） Basic course of Modern Culture & History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史概説講読（後期）									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーダ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第6章<La prima lotta fra papato e impero>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回（イントロダクション） 授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。またテキストの冒頭部分を試しに読んでみる予定です。</p> <p>2回～14回（講読） 文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回（フィードバック）</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テストをもとに評価します。											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）（講読VI）(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読VI)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心がけてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを確認することが重要です。また小テストでチェックされたところを見直しておきましょう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系25

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時間	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラザフォードと原子核物理学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、英国の物理学者ラザフォード（Ernst Rutherford）を中心に、20世紀初頭における原子核物理学の誕生の過程を検討する。この時期には、放射線、放射能、放射性崩壊が相次いで発見され、原子内の現象を扱う原子核物理学が誕生した。この研究で中心的な役割を果たしたラザフォードの論文の読解を通じてこの過程を考察する。											
【到達目標】											
20世紀初頭の物理学の発展、とくに原子核物理学の誕生について歴史的理解を深め、この時代の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 それぞれについて1-3回程度を当てる。 後半では、出席者に論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション 20世紀初頭の物理学 放射線・放射能・放射性崩壊の発見 ラザフォードの人生と業績 2：ラザフォードらの論文の検討 放射性と放射能 粒子 放射性崩壊 フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表）と期末レポートによって評価する（各50点）。											
【教科書】											
授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 西尾成子 『こうして始まった20世紀の物理学』（裳華房） ハイルブロン 『アーネスト・ラザフォード 原子の宇宙の核心へ』（大月書店）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

ワイバーグ『新版 電子と原子核の発見』（筑摩書房）
授業中に紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に配布するテキストや参考資料を，授業前および授業後に熟読すること。
また授業中に紹介する参考文献を適宜読むように。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系26

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		大森房吉と近代地震学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、近代地震学の父と呼ばれる大森房吉の業績を取り上げ、19世紀末から20世紀初頭の日本における地震学、そして地球物理学について検討する。大森房吉の代表的業績である「大森公式」のほか、地震予知をめぐる議論に関しても考察する。											
【到達目標】											
地震学を中心として、20世紀初頭の日本の科学の発展について理解し、この時期の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 後半では、出席者にも論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション（各1回） 明治以降の科学の発展と地震学の誕生 大森房吉の人生と背景 2：大森房吉の科学的業績の検討（各3-5回） 余震回数の変化的変化 初期微動継続時間と震源までの距離の関係 地震予知 フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
【教科書】											
授業に必要なテキストや参考資料は、担当教員が用意して配布する。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

上山昭博 『地震学をつくった男・大森房吉』(青土社)
金凡性 『明治・大正の日本の地震学』(東京大学出版会)
授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。
授業中に紹介する文献を適宜読むように。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系27

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		リスクの哲学 Philosophy of Risk									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義のテーマは科学の哲学的側面にかかわるさまざまな話題をとりあげる形で毎年変更されます。今回は科学技術にまつわるリスクを哲学的観点から考えます。リスクにまつわる哲学的な問題としては、リスクとはそもそも何か、リスクについてどのような考え方をすればよいか、リスクについて誰にどのような責任があるか、などがあります。この授業では、2012年に出版された『リスク理論ハンドブック』などをてがかりにこれらの問題を順次扱って行きます。また、日本においてリスクをめぐるコミュニケーションや意思決定の問題は特殊な現れ方をしています。そうした特有な側面についても事例を使いながらあわせて考えて行きたいと思えます。</p> <p>The topic of this special lecture varies every year, picking up various topics related to the philosophical aspects of science. This year, we examine risks associated with science and technology from philosophical points of view. To name some philosophical issues related to risk: what is a risk in the first place?; in what way should we think about risk?; who are responsible for risks and in what way? In this class we discuss these issues one by one using mainly a 2012 book titled Handbook of Risk Theory as the guide. In addition, the issue of risk communication and decision making figures in a peculiar manner in Japan; we deal with such peculiar aspects in this class using concrete cases.</p>											
【到達目標】											
<p>科学に対する哲学的なものの見方というのがどのようなものかを理解する。とりわけ、今年度の授業においては、授業内で紹介する議論や観点を理解し、それがリスクの問題とどう関わるかを理解する。</p> <p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this year, this means understanding arguments and positions introduced in the class and seeing what are their implications for the issue of risk.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。 以下は扱うトピックの暫定的リストです。（一項目に1-2週かけます）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リスクの哲学の全体像 2 リスクと安全の概念 3 文化としてのリスク 4 事例研究（1）：公衆衛生とリスク 5 リスクと決定理論 6 リスク認知 7 リスクの倫理学 8 事例研究（2）：地震のリスク 9 リスクと公平性 10 リスクと責任 											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

1 1 事例研究(3): 原子力のリスク

課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。

The lectures will be given both in Japanese and English.

Tentative list of topics (we will spend one or two weeks for each topic)

1. Overall picture of philosophy of risk
2. Concepts of risk and safety
3. Risk as culture
4. Case study (1) : public health and risk
5. Risk and decision theory
6. Risk perception
7. Ethics of risk
8. Case study (2): risk of earthquake
9. Risk and impartiality
10. Risk and responsibility
11. Case study (3): risk of nuclear energy

Regarding the feedback on your assignments, more information will be given in the class.

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

中間の論文計画の提出(25%)と期末論文の提出(75%)を総合して100点満点(60点以上合格)で評価する。

評価は、授業で取り上げられた理論が適切に理解できているか、そうした理論が適切に具体例に適用できているか、という視点から行われる。講師の中間論文計画へのコメントへの反応も評価の対象となる。

A midterm paper project and the final paper. The project and the final paper as a whole is evaluated numerically, where the full mark is 100 and a passing mark is above 60.

The assessment is done from the viewpoint of (1) whether the paper reflects proper understanding of the theories discussed in the class and (2) whether the theories are properly applied to concrete cases.

Responsiveness to the instructor's comment to the paper project is also assessed.

【教科書】

主に以下の書籍から関連箇所を授業内で配布

Sabine Roeser et al. eds. (2012) Handbook of Risk Theory: Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk, two vols. Springer.

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Students are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.
Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系28

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		科学的实在論論争の過去と現在									
【授業の概要・目的】											
<p>科学的实在論論争は、科学が指定する観察不可能な対象の存在についてどのような態度をとるべきかということについての論争である。この論争の基本的な枠組みは1980年代につくられたが、関連する論争はそれ以前から行われており、なぜこの論争が現在の形をとっているかを理解するには、それまでの流れを理解することも重要である。今回の授業では、科学哲学において「实在」がどのように論じられてきたのかを歴史的なパースペクティブの上で捉え直すとともに、現在論争がどのような状況にあるか、とりわけ科学の諸分野における实在の問題について何が論じられているかを紹介する。</p>											
【到達目標】											
<p>科学的实在論論争の歴史的な展開を理解するとともに、科学が指定する対象への態度について現在どのような立場があるか、および、さまざまな領域でこの問題がどのような形をとっているかを理解し、批判的な検討ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマを扱う予定（一項目に1-2週かける）</p> <p>第一部 歴史的背景</p> <p>1 19世紀の論争</p> <p>2 論理実証主義の实在に関する立場</p> <p>3 論争の成立</p> <p>第二部 現在の論争</p> <p>4 構成的経験主義</p> <p>5 悲観的帰納法と想定されざる対案</p> <p>6 選択的实在論</p> <p>7 パースペクティブ主義</p> <p>第三部 さまざまな領域における实在の問題</p> <p>8 物理学における实在論</p> <p>9 歴史科学における实在論</p> <p>10 化学における实在論</p> <p>11 認知科学における实在論</p> <p>12 まとめ</p>											
<p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

[教科書]

以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布
Saatsi, ed. (2018) Routledge Handbook for Scientific Realism. Routledge.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系29

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境としての科学技術									
【授業の概要・目的】											
この授業では、科学技術がどのように現代の環境をつくりあげているのか考える。現代においては、科学技術は単なる道具ではなく、私たちが生きる世界そのものをつくりあげている。それはどのようなものか、科学技術史と科学技術論の両面から検討していく。話題はおもに日本における歴史的な事例から取り上げるが、世界的な文脈についても視野に入れて論じる。											
【到達目標】											
科学技術がつくりあげる世界についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術がつくる環境【2週】 ガイダンス、3.11と科学技術論 2. 自然環境【3週】 野生動物、野鳥、害虫 3. 地下の人工環境【2週】 炭鉱、地下街、大気 4. 都市の人工環境【2週】 時間、鉄道 5. 人工環境としての地球【2週】 情報社会、人新世 6. 環境の科学技術論【2週】 技術哲学、技術史 7. まとめと総括【1週】 8. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
最終レポート(60%)、中間レポート(2回、40%)											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献については授業中にリストを配布する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系30

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		名古屋大学大学院経済学研究科 隠岐 さや香 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然科学と人文社会科学の系譜学									
【授業の概要・目的】											
<p>近年は自然科学史だけでなく、経済学・社会学などの社会科学（Social Science）や文学・文献学などの人文（科）学（Humanities）の歴史研究が進展し、忘れられていた諸学間の関係性や影響関係が見直されつつある。この講義ではいくつかの具体的事例や史料を用いつつ、主に17-19世紀の西欧世界で、自然科学・社会科学・人文科学という三つの分類が出現する経緯を思想史的に考察する。それにより、いわゆる文系・理系を越えた知の歴史として科学史を理解する視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義の目標は、以下の二点である。</p> <p>1) 自然科学・社会科学・人文社会科学について思想史的に考察する姿勢を身につける。 2) 異分野間の影響関係について具体的な事例から理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 人文主義とアカデミーの文化 3. 17世紀における科学と政治(1)統治の技法 4. 17世紀における科学と文芸(2)分野別アカデミー 5. 『百科全書』時代の学問体系 6. 蓋然性の探究と法学・数学 7. 18世紀の道徳科学(1)コンドルセの社会数学 8. 18世紀の道徳科学(2)文明史と進歩主義思想 9. 19世紀の道徳科学(1)観念の分析・統計学 10. 19世紀の道徳科学(2)政治経済学・司法 11. 自然科学から社会科学へ：ジョン・スチュアート・ミルの『論理学』 12. 社会科学から自然科学へ：ダーウィニズムと「分業」観 13. 「人文（科）学」の目覚めと自然科学 14. 人文社会科学・自然科学とジェンダー 15. 総合討論 											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業参加(30%)
授業終了時のレポート(70%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義中に指示をする。
ただし講義への積極的な参加と、講義中に提示された文献の読解を推奨したい。

(その他(オフィスアワー等))

シラバスは変更することがある。変更の場合は授業内で通知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系31

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マクリントックと「動く遺伝子」の発見									
【授業の概要・目的】											
この授業では、米国の遺伝学者マクリントック (Barbara McClintock) を取り上げ、20世紀中頃の遺伝学の歴史に関する理解を深める。マクリントックは、トウモロコシにおける「動く遺伝子」(トランスポゾン) の発見によって、ノーベル生理学賞を受賞している。彼女の論文の読解を通じて、当時の遺伝学の実験と理論について考察する。											
【到達目標】											
20世紀の遺伝学の発展についての理解を得るとともに、英語の原典史料を読解する能力を獲得することを旨とする。											
【授業計画と内容】											
イントロダクション(2回)ののち、マッキントックの英語論文を読解する(第3回以降)。以下の項目に従って進める予定である。 1: イントロダクション 20世紀遺伝学の概要 マクリントックの人生と行政記 2: マクリントックの論文読解(読解する論文の順序については出席者と相談の上決定する) "Correlation of cytological and genetical crossing-over in Zea mays." (1931) "Mutable loci in maize." (1951) "The significance of responses of the genome to challenge"(Nobel lecture) (1983) フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(出席および発表)と期末レポートによって評価する(各50点)。到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) ケラー 『動く遺伝子 トウモロコシとノーベル賞』(晶文社) 渡辺政隆 『DNAの謎に挑む』(朝日新聞社)											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

授業中に紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に配布するテキストや参考資料を，授業前および授業後に熟読すること。
授業中に紹介する文献を適宜読むように。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系32

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ナイチンゲールと医療統計の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、ナイチンゲール（Florence Nightingale）を取り上げ、19世紀における医療統計学の誕生過程に関する理解を深める。ナイチンゲールは、クリミア戦争における英国軍病院の状況に関する統計報告を作成したが、これは医療統計の始まりと評価されている。この報告書の読解を通じて、当時の統計学について考察する。											
【到達目標】											
19世紀中頃の医療統計学についての理解を得るとともに、19世紀の英語科学文献を読解する基礎的な能力を獲得することを目指す											
【授業計画と内容】											
最初の2回程度をイントロダクションにあて、第3回からはナイチンゲールの報告書を読解する。以下の項目に従って進める予定である。 1：イントロダクション 19世紀の医療と統計学 ナイチンゲールの人生と業績 2：ナイチンゲールの医療統計学の報告書の読解 Notes on Matters Affecting the Health, Efficiency and Hospital Administration of the British Army (London, 1858) フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表）と期末レポートによって評価する（各50点）。到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業で使用するテキスト等は、担当教員が準備して配布する。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

多尾清子 『統計学者としてのナイチンゲール』 (医学書院)

小玉香津子 『ナイチンゲール』 (清水書院)

授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。

テキスト読解の十分な予習は不可欠である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系33

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィールド科学における測定									
【授業の概要・目的】											
<p>科学哲学は伝統的に物理学をはじめとした厳密科学を主な研究対象としてきた。その背景として、そうした分野は論理学などのツールを使った分析が行いやすいといった理由が考えられる。しかし、近年になって観察科学や社会科学など、厳密な測定の難しい非厳密科学にも科学哲学の分析が及ぶようになってきた。この演習ではMarcel Boumansの『ラボの外の科学：フィールド科学と経済学における測定』を手がかりに、フィールド科学における測定はどういう問題に直面し、それをどう解決していけばいいのか、そのことについて科学哲学は何が言えるのか、を一緒に考察していきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>Boumansのフィールド科学における測定についての考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boumans, M. (2015) Science Outside the Laboratory: Measurement in Field Science and Economics. Oxford University Press. 第4章までを主に読む。</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。</p>											
【教科書】											
<p>「授業計画と内容」で挙げた書籍から授業に使用する部分を配布</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系34

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		文化進化論の現在									
【授業の概要・目的】											
ロバート・ボイドはピーター・リチャードソンとの共同研究による「二重継承説」で知られる人類学者である。これは人類進化（とりわけ協力行動の進化）において生物学的進化と文化的進化の相互作用が重要な役割を果たしてきたという立場である。今回の演習では、ボイドの講義と数人の論者によるボイドへのコメントを集めた『異なる種類の動物：文化はいかに人類を変えてきたか』を手がかりに、文化進化論の現在について考える。											
【到達目標】											
ボイドの文化進化についての考え方や、それに対するコメントを理解し、批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boyd, R. et. al (2018) A Different Kind of Animal: How Culture Transformed Our Species. Princeton University Press. ボイドによる第一章とコメンテーターによる第三章-第五章を中心に読む。 基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。 課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。											
【履修要件】											
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系35

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何を学ぶ学問か 形式言語 最小命題論理の -導入規則および除去規則 最小命題論理の 、 -導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

【教科書】

使用しない
毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

【授業外学習(予習・復習)等】

ハンドアウトなどの授業資料は毎回、事前(1~2日前)にwebsite(上記の授業Blog)にアップする。

学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系36

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
[授業の概要・目的]											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
[到達目標]											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
<p>具体的な授業改革は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

【履修要件】

前期の演習「論理学1」を履修すること

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う

【教科書】

使用しない

毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

【授業外学習(予習・復習)等】

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系37

科目ナンバリング		U-LET32 48243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(卒論演習Ⅰ) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における、基礎的な知識の理解を向上させるとともに、近年の研究動向についての知識を得る。 それらを基盤として、卒業論文の作成に必要な基礎的な力を養う。											
[到達目標]											
科学哲学・科学史の基礎知識を向上させるとともに、論文作成のための基礎的な力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各学生に研究の進行状況を報告してもらい、研究テーマの設定、先行研究についての理解などについて個別に指導を行う。 発表順や具体的な発表課題・内容等については、出席学生と担当教員とで相談をして決める。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および発表等）によって評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系38

科目ナンバリング		U-LET32 48247 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(卒論演習II) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における、基礎的な知識の理解を向上させるとともに、近年の研究動向についての知識を得る。 それらを基盤として、卒業論文の作成に必要な基礎的な力を養う。											
[到達目標]											
科学哲学・科学史の基礎知識を向上させるとともに、論文作成のための基礎的な力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各学生に研究の進行状況を報告してもらい、研究テーマの設定、先行研究についての理解などについて個別に指導を行う。 発表順や具体的な発表課題・内容等については、出席学生と担当教員とで相談をして決める。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席および発表等）によって評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系39

科目ナンバリング		U-LET34 48345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		二十世紀学(卒論演習) Twentieth Century Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金3,4	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文作成演習									
[授業の概要・目的]											
卒業論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
[到達目標]											
卒業論文を作成する上で必要になる力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>1回目：卒論予定テーマについて全員が、その要略を説明する。</p> <p>前期の2回目以降：各回とも、1名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。</p> <p>後期の初回：全員が卒論の中間報告をおこなう。</p> <p>後期の2回目以降：各回とも、1名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、論旨について報告する。当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進めるうえでの課題を考える。</p> <p>最終回：フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(60点)と、卒論中間報告(40点)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) なし											
[授業外学習(予習・復習)等]											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系40

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南部アフリカ現代史の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>南部アフリカ（南アフリカおよび周辺諸国）の、アパルトヘイト体制崩壊以降の歴史を、背景となるそれ以前の時期の歴史を含めて、扱う。</p> <p>南部アフリカ諸地域は、第二次世界大戦後にアパルトヘイト体制を本格化させた南アフリカを中心に、世界が脱植民地する時期に、いわばそれに逆行するかのよう、植民地主義と人種主義のさらなる激化を経験した。1990年代以降、その体制が崩壊し、現在に至るまで、大きな社会変動が生まれている。その変動の中で当該社会がどのような課題に直面し、それらをどのように乗り越えようとしているのかを多面的に取り上げる。それを通じて、植民地主義とアパルトヘイトとはどのようなものであったかを考え、さらには、ポストコロニアリズムとコロニアリズムとの関係に考察を及ぼせる。</p> <p>以上のような南部アフリカ社会の検討は、世界各地での脱植民地化や、紛争後社会の体制移行の問題についての理解をも深めることに通ずるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・南部アフリカのアパルトヘイト体制とその前史としての植民地主義について、基本的な事実を理解する。 ・1990年代以降の南部アフリカ社会の変動にかんする基本的事実、人々の抱えている課題とその克服の試みについて、世界史の中に位置づけて理解する。 ・南部アフリカ社会の変動についての理解を通じて、現代世界の抱える基本的な問題としての帝国主義と脱植民地化についての理解を深め、「現代」を考察する視座を得る。 											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 南部アフリカの現代から世界の現代史を考える 2 前史 植民地主義とアパルトヘイト 3 アパルトヘイト体制の崩壊 4 ANCとネルソン・マンデラの思想 5 新憲法 6 真実和解委員会の活動 7 真実和解委員会の残したもの 8 土地改革の理念と構造 9 土地改革の実際 10 ネオリベリズムと社会的公正 11 伝統的権威と近代民主主義 											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

- 12 伝統的権威と伝統法
- 13 伝統とジェンダー
- 14 「脱植民地化」をめぐる論争
- 15 まとめとフィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学期末の試験。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系41

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系42

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系43

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か</p> <p>第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第4回 メディア都市の成立</p> <p>第5章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第6回 大衆新聞の成立</p> <p>第7回 視覚人間の国民化</p> <p>第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第9回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第10回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第11回 テレビによるシステム統合</p> <p>第12回 情報化の未来史</p> <p>第13回 脱・情報社会へ</p> <p>第14回 総論・試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

[教科書]

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス）ISBN:9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年も利用してもよい。）

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス）ISBN:9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版）北京大学出版社2004年も利用してもよい（ただし、旧版の翻訳）。）

[参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア論』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

[授業外学習（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を事前に読んでおくことが望ましい。

メディア文化学(特殊講義)(3)へ続く

メディア文化学(特殊講義)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系44

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 日本的な文化の語り ・ 明治維新と桜 ・ 近現代の桜 ・ 廃仏毀釈と文化財の破壊 ・ 古都奈良の明治維新 ・ 古都京都の明治維新 ・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・ 京都御所から京都御苑へ ・ 明治維新と陵墓 ・ 正倉院御物の成立 ・ フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ ポストン美術館と日本美術 ・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・ 「日本美術史」と文化財保護 ・ 帝室博物館と古都奈良・京都 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

【授業外学習(予習・復習)等】

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者とする。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系45

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サッチャー時代のイギリス									
【授業の概要・目的】											
今年度の授業は昨年度後期の「サッチャリズム序説」の増補版である。イギリス現代史上の決定的な転換期といわれるサッチャー時代（1979～90年）はイギリス社会をいかに変え、その変化は今日のイギリスをいかに規定しているのか、経済、社会保障、労使関係、外交、といった主要な政策領域に加え、サッチャーが折に触れて強調したモラルの改革をも視野に収めて検討することが主たる課題となる。											
【到達目標】											
サッチャリズムの時代がいかなる意味でイギリス現代史上の転換期であったか、第二次世界大戦から今日に至る長いパースペクティブの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)マーガレット・サッチャーの形成（1回） (2)「コンセンサス」批判（1回） (3)モラルの改革（2回） (4)経済政策（2回） (5)労使関係（2回） (6)福祉国家の解体？（2回） (7)アメリカとヨーロッパ（2回） (8)権威主義的リーダーシップ（1回） (9)サッチャー以降のサッチャリズム（1回） (10)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

オーウェン・ジョーンズ(依田卓巳訳)『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系46

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐって、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政 ・ 吉野山・奈良公園の近現代 ・ 嵐山・嵯峨の近現代 ・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮） ・ 黒板勝美とハイマートシュッツ（郷土色保存） ・ 帝国における文化財 ・ 近現代の陵墓 ・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟 ・ 内務省と国立公園 ・ 国宝保存法と文部省の文化財行政 ・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査 ・ 伝説・物語と文化財 ・ 戦後改革と文化財の誕生 ・ 世界遺産と日本の文化財保護法 ・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題 											
<p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

【授業外学習(予習・復習)等】

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系47

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの1960年代									
【授業の概要・目的】											
<p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p>											
【到達目標】											
イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<p>(1)さまざまな1960年代論（1回） (2)「豊かな社会」という前提（1回） (3)若者の台頭（1回） (4)文化革命の諸相（音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等）（2回） (5)ビートルズとロックの覇権（2回） (6)「許容する社会」の到来（1回） (7)性的解放（1回） (8)1968年（1回） (9)人種問題（1回） (10)モラリズムの反撃（2回） (11)二大政党の1960年代（1回） (12)総括（1回）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。

ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系48

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。 ・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。 											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。</p> <p>評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。</p>											
【教科書】											
使用しない											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系49

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代の文学や伝説に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、後期の履修を推奨する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜講義内容に関する質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を用紙に記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 『利根川凶志』と「通ひ路」「龍胆と撫子」、『雨月物語』と「七本桜」「妖僧記」、『児雷也豪傑譚』と「龍胆と撫子」「黒百合」 第3回 「大晦日曙草紙」と「絵本の春」、「新著聞集」と「尼ヶ紅」、「老媪茶話」と「眉かくしの霊」 第4回 「想山著聞奇集」と「星女郎」「駒の話」、「三州奇談」「三州奇談後編」と「絵本の春」「山海評判記」 第5回 『甲越軍記』と「戦国新茶漬」、『南総里見八犬伝』と「五の君」、『邯鄲諸国物語』と「伊勢之巻」 第6回 『十方庵遊歴雑記』と「江戸土産」「新江戸土産」 第7回 『十方庵遊歴雑記』と「鯛」「入子話」、『日暮硯』と「十万石」 第8回 発想・話型の類縁性 第9回 縄ヶ池龍女伝説と「蓑谷」「龍潭譚」、双六谷盤の石伝説と『神鑿』 第10回 金沢松月寺の桜伝説と「桜心中」、おおわた伝説と「斧琴菊」 第11回 鷺伝説と「鷺の灯」「青鷺」、昔話「物食う魚」と「鰻」 第12回 「マヨイガ」と「毘首羯摩」、「呼名の怪」と「龍胆と撫子」「隣の糸」 第13回 上記作品に関する補足説明、レポート作成の注意 第14回 レポート講評 第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

質問・意見等の表明 4 割、レポート 6 割。

【教科書】

プリントを配布することがある。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を用紙に記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系50

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代や伝説を素材とした作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、前期の履修を推奨する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を用紙に記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品</p> <p>第2回 猫嶽と「雪柳」、「目一つの怪」と「龍胆と撫子」続篇等</p> <p>第3回 知友からの伝聞、車前草と「幻往来」、喜多村緑郎と「霊象」、「お忍び」</p> <p>第4回 鍋木照と「浅茅生」</p> <p>第5回 岩永端と「海異記」</p> <p>第6回 『釈迦八相倭文庫』と『神鑿』、『三虫拇拳』と「天守物語」</p> <p>第7回 『折々草』と「二三羽 十二、三羽」</p> <p>第8回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品前半を読む</p> <p>第9回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品中盤を読む</p> <p>第10回 「春昼」「春昼後刻」と古典：作品後半を読む</p> <p>第11回 「三枚続」と「わかれ道」</p> <p>第12回 「式部小路」と「わかれ道」</p> <p>第13回 上記作品に関する補足説明、レポート作成の注意</p> <p>第14回 レポート講評</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

質問・意見等の表明 4 割、レポート 6 割。

【教科書】

使用しない
プリントを配布することがある。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を用紙に記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系51

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵迢 由香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論 2 . 日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える 3 . 戦後日韓関係の展開 1 : 日韓相互認識の変遷 4 . 戦後日韓関係の展開 2 : 日韓交渉と日韓条約 5 . 戦後日韓関係の展開 3 : 戦後補償問題の進展 6 . 労働力・兵力強制動員問題 1 : 動員政策の展開と朝鮮社会 7 . 労働力・兵力強制動員問題 2 : 日本における地域運動 8 . 労働力・兵力強制動員問題 3 : 韓国における戦後補償運動の展開 9 . 労働力・兵力強制動員問題 4 : 戦後補償裁判 10 . 労働力・兵力強制動員問題 5 : 近年の状況・まとめ 11 . 日本軍「慰安婦」問題 1 : 「慰安所」制度の構造 12 . 日本軍「慰安婦」問題 2 : 「慰安婦」制度の実態 13 . 日本軍「慰安婦」問題 3 : 「慰安婦」運動の展開 14 . 教科書問題 15 . まとめ <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(40点)：コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。
レポート(60点)：講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系52

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		経営管理大学院 特命教授 石尾 和哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦後日本経済史 ~ カルチャー研究のプラットフォームとして ~									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の第二次大戦後の経済史を概観することで、各時代の大衆文化の背景を理解するための素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>経済変動は所得増減や失業率などへの影響を通じて、人々のマインドに影響を与える。それが大衆文化に大なり小なり影響を与えているものと考えられる。</p> <p>各時代の出来事や空気感と共に立体的に経済的背景を理解し感じて頂くことで、カルチャー研究の一助として頂きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>歴史に「必然」があるのか否かは不明。しかし因果はあるだろう。即ち現在が過去の行動の結果であるなら、歴史を学ぶことで現在のカルチャーを理解する一助となる。</p> <p>経済情勢は人々の生活に影響を与え、将来見通しに影響を与える。一方、大衆文化は人々の潜在ニーズが大きな潮流となって発現するものであるならば、経済情勢が大衆カルチャーの発現にかなりの影響を与えていると考えられる。従って経済史を学ぶことで、現在を含め、各時代の大衆文化の背景を理解することが可能となる。各自の研究テーマを深く考察するために、本講義を通じて経済史の知識を活用できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>概ね、時代区分毎に各回独立的に講ずる。</p> <p>経済史を概観した後に、各時代の代表的なカルチャーや商品を紹介し、経済情勢がどのように大衆文化に影響を与えたのかを考察する。</p> <p>(授業の進度によっては各回の内容が変わる場合がある)</p>											
第1回		オリエンテーション									
第2回		戦後経済史概観									
第3回		戦中～戦後復興期									
第4・5回		高度成長期の経済、カルチャー、商品									
第6・7回		安定成長期の経済、カルチャー、商品									
第8・9回		バブル期の経済、カルチャー、商品									
第10・11回		経済停滞期の経済、カルチャー、商品									
第12・13回		小泉改革と反動期の経済、カルチャー、商品									
第14回		アベノミクス時代の経済、カルチャー、商品									
第15回		全体まとめ									
											メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業における参加(30%)

最終レポート(70%)

[教科書]

レジメを毎回KULASISにアップします。
各自ダウンロード、出力の上で、受講下さい。

[参考書等]

(参考書)

(参考書)

八代尚宏『日本経済論・入門』(有斐閣) ISBN:978-4641164116
(コンパクトに戦後日本経済史が概観できる)

野口悠紀雄『戦後日本経済史』(新潮選書) ISBN:978-4-10-603596-8
(戦後経済政策の立案者側の情報が得られる)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

面談が必要な場合にはメールで予約を行ってください。
講師はシンクタンク等で経営コンサルティング活動と並行して、経営学研究、カルチャー研究を行っています。

二十世紀学専修卒業、京都大学博士(経済学)

京都大学経営管理大学院特命教授(サービス経営論)を兼務しています。

授業に関する質問・意見、あるいは市場経済、企業経営に関する質問など、メール等でお寄せ頂くことを歓迎します。

ishio.kazuya.35m@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系53

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 総合情報学部 教授 研谷 紀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	「場所の記憶」とデジタルヘリテージ ビジュアル資料が担う記憶の想起とその継承										
【授業の概要・目的】											
<p>歴史的な事象と関係する場所や空間にはその出来事に関する記憶と記録が様々なかたちで伝わっています。それは博物館、図書館、文書館、資料館、記念碑などの形として遺されているものもあれば、式典・儀礼や語り伝えなど、固定されていない形としても伝わっています。そして現代はそれらの記憶や記録が「デジタルヘリテージ」とよばれるようなインターネット上のコンテンツとして遺されるようになってきています。</p> <p>本講義では歴史的出来事や文化的な事象と関わり合いを持つ場所の中で、ある種の権威や尊厳を保ちながら、非日常的なスペクタクルを形成している場所や空間をとりあげていきます。そして、これらの場所や空間においては、どのような形で歴史や文化に関する記憶や記録が遺され、さらにサイバースペース上においては、映像や写真などのビジュアル資料を用いてどのようにその記録が伝えられているかを考察します。そのことによって特定の場所にまつわる記憶と記録が時空間を越えてどのように継承されていくかについて考えを深めていきます。</p> <p>具体的には、本講義で扱う内容は3つの大きなテーマで構成されますが、まず第1部では近代国家が首都の中心に設立した代表的MUSEUM、LIBRARY、ARCHIVEを題材とし、次の第2部では「負の記憶」と呼ばれる戦争や事故、自然災害などが起きた場所をとりあげます。そして第3部では日本の歴史や文化と関係する場所や空間について考察を進めます。</p>											
【到達目標】											
<p>世界にある様々な「場所」と「記憶や記録」の関係を理解するとともに、それらに関する写真や映像に関する資料がインターネット上で公開されている現状を捉えます。その上でそれらが社会の記録と記憶の継承にどのような役割を果たしていくかについての考えを深めることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第01講：イントロダクション 第02講：ルーヴルにみる「王家と国家の記憶」とデジタルヘリテージ 第03講：大英図書館と米国議会図書館の拡大にみる知識の標準化 第04講：米国国立公文書館とウィキリークスの対比にみるグローバル社会と記録のありか 第05講：震災をめぐる神戸と東北の記憶と記録の異同 第06講：911テロとニューヨーククロワータウンの復興記録 第07講：広島原爆をめぐる記憶と記録の葛藤</p>											
											メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く

メディア文化学(特殊講義)(2)

第08講：中間のまとめ

第09講：戦争をめぐる世界の映像アーカイブと記録映像の編纂-NHK「映像の世紀」を中心に-

第10講：劇映画の中のアウシュヴィッツ像

第11講：ジュネーブと難民・移民の記憶と記録/チェルノブイリと福島における原発事故をめぐる記憶と記録

第12講：近代天皇像の形成にみる場所と空間の記憶-宮内公文書館のデジタルヘリテージを中心に-

第13講：日本武道館の文化社会史

第14講：地図にみる文化と都市の情報化（ぴあmapからGoogleMapへ）

第15講：まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

- ・出席（50点）と授業でのコメントシートやレポート（50点）により評価する。
- ・レポートについては毎回関連するネット上のデジタルヘリテージを閲覧しワード1枚程度にまとめる課題が出される。
- ・4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

研谷紀夫『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』（勉誠出版）ISBN:4585104429

ピーターバーク『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』（中央公論美術出版）ISBN:4805505486

竹沢 尚一郎『ミュージアムと負の記憶 戦争・公害・疾病・災害:人類の負の記憶をどう展示するか』（東信堂）ISBN:4798913170

ピエール・ノラ、谷川 稔（監訳）『記憶の場 フランス国民意識の文化=社会史』（岩波書店）ISBN:4000225197

【授業外学習（予習・復習）等】

あらかじめ示した内容について予習し、授業後に課題が提示された場合は提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系54

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 古代中国経済と商業 3. 隋唐帝国経済と商業 4. 宋代商業の発展と仲介者 5. モンゴル時代のユーラシア商業 6. 明代経済の展開と牙行（1） 7. 明代経済の展開と牙行（2） 8. 東アジア海域交流と仲介者 9. 倭寇的状況と仲介地（1） 10. 倭寇的状況と仲介地（2） 11. 明清交替期の海域世界と仲介者 12. 清代海上貿易の展開と仲介者 13. 海域近代の始まりと仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く											

メディア文化学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系55

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. アヘン貿易と仲介者 3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 5. 苦力貿易と客頭（1） 6. 苦力貿易と客頭（2） 7. 開港場貿易の発展と行棧（1） 8. 開港場貿易の発展と行棧（2） 9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1） 10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系56

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際文化学研究科 教授 長 志珠絵			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近代における「戦争」と文化をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>19-20世紀の近代国民国家は「国民」形成の中核に「戦争」をめぐる文化装置を必要とした。またこの問題は「国民」をめぐる文化政治と密接に関係するため、植民地支配や総力戦体制下での変容に加え、さらに戦後史への射程を必要とする。戦争認識をめぐる文化研究、社会史研究、ジェンダー研究などの方法論や、帝国と戦後を架橋する空襲・防空研究典型的な歴史事象から事例を取り上げ史料論としても言及しながら、19世紀末から1970年代にいたる戦争と文化をめぐる諸問題を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>日本近代における戦争と文化をめぐる研究上の成果や論点、史料状況について具体的な知識を獲得するとともに、研究方法や分析視点を習得することで、近い過去の論争的課題についての考察力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>*各項目の講義の回数は固定したものではなく、講義の進行状況や受講者の理解の程度に応じて、変動することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入-戦争の想起と文化をめぐる研究動向 2 「国民化」の時代と「戦争」メディア<2回> 3 歴史と戦争をめぐる展示と同時代教育<2回> 4 「国民」とは誰か？-兵士のジェンダーと植民地支配<2回> 4 防空言説と国民像の変容<3回> 5 占領と戦争経験・戦争像<2回> 6 戦後史のなかの空襲の記憶と記録<2回> 7 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の発言・コメント紙回答50% レポートとテスト50%などを総合的に評価する。											
----- メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く											

メディア文化学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示するほか、適宜史料レジюме等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系57

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系58

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系59

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>各2～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男らしさと名誉 2. 身体の再発見 3. 植民地状況における男らしさ 4. 戦争と男らしさ 5. 戦争とセクシュアリティ 6. 戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料の他、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

(参考書)

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』(藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系60

科目ナンバリング		U-LET37 38941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習 I) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 A									
[授業の概要・目的]											
各自が、現代を中心に、メディア文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。メディア文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。											
[到達目標]											
既存の学術書・学術論文を読み込むことで、自身に取り組むべき、そして取り組み可能な研究テーマを発見する力を養う。 同時に、研究動向を把握し、先行研究を批判的に理解する力も養うことができる。											
[授業計画と内容]											
1 回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2 回目以降：各回とも、1名ないし2名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。 最終回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。 また、報告者となることが、単位取得の上で必須である。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのようなアプローチをしているのだろうか。まず3～4点ほどの学術書・論文を熟読することからはじめて、アプローチの仕方を事前に考えよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系61

科目ナンバリング		U-LET37 38941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習 I) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 B									
[授業の概要・目的]											
各自が、現代を中心に、メディア文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。研究論文執筆につながりうるテーマを選択できる眼力の涵養と、資料発見能力の育成を目的とする。											
[到達目標]											
研究論文を書くには、研究状況と資料状況を踏まえて、自身を取りくみえる研究テーマを発見することが重要である。この授業では、そのような発見力を養う。											
[授業計画と内容]											
1回目：テーマの選び方について講述する 2回目以降：各回とも、1名ないし2名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。 最終回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。 また、報告者となることが、単位取得の上で必須である。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのような資料を用いて論じているのだろうか。そのことに注意を払いながら、まず3～4点ほどの学術書・論文を熟読してみよう。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系62

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する（全15回）。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力（第二外国語履修程度）が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
指定部分の日本語訳 （その他（オフィスアワー等）） 毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系63

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する（全15回）。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力（第二外国語履修程度）が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系64

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		1940年代の短篇小説									
【授業の概要・目的】											
太宰治を中心に、1940年代に発表された短篇を精読する。											
【到達目標】											
1940年代の短篇作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクションとして、授業の概要、進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 中島敦『山月記』について複数の角度から検討し、討論する。											
第3回 志賀直哉『灰色の月』について複数の角度から検討し、討論する。											
第4回 坂口安吾『復員』について複数の角度から検討し、討論する。											
第5回 太宰治『満願』について議論する。											
第6回 太宰治『畜犬談』について議論する。											
第7回 太宰治『待つ』について議論する。											
第8回 なかじきり：ここまでの議論をまとめ、ふり返る。											
第9回 太宰治『親友交歓』について議論する。											
第10回 太宰治『フォスフォレスセンス』について議論する。											
第11回 太宰治『I can speak』について議論する。											
第12回 太宰治『葉桜と魔笛』について議論する。											
第13回 太宰治『燈籠』について議論する。											
第14回 太宰治『黄金風景』について議論する。											
第15回 まとめ：太宰治を中心とした1940年代の短篇について討論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表、及び授業中の発言などの平常点による。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系65

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		織田作之助の小説を読む									
[授業の概要・目的]											
織田作之助の小説作品を精読する。											
[到達目標]											
織田作之助の作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクションとして、授業の概要、基本的な作品分析の進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 織田作之助の創作活動について講師が概説する。											
第3回 「馬地獄」を講師が精読し、議論する。											
第4回 『それでも私は行く』を講師が精読し、議論する。											
第5回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第6回 『俗臭』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第7回 『夫婦善哉』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第8回 『放浪』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第9回 『雪の夜』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第10回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第11回 『木の都』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第12回 『蛭』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第13回 『猿飛佐助』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第14回 『競馬』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第15回 まとめ：織田作之助の創作活動全体について討論する。											
[履修要件]											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

発表、及び授業中の発言などの平常点による。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系66

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化からみる集合的 記憶 と集合的 夢									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定のメディア文化を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～6回目：戦争の 記憶 7～10回目：原爆の 記憶 10～11回目：原子力の 夢 12～13回目：宇宙開発の 夢 14～15回目：豊かな生活の 夢 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末のレポート

なお、平常点とは、授業内での個人報告（グループ報告）を指す。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

個人報告（グループ報告）の順番が決まったあとは、担当するメディア文化（映画・マンガ・文学）を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系67

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決める）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力を養う。個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～5回目：戦後復興期 6～9回目：高度経済成長 9～10回目：70年代の家族 11～12回目：80年代以降の消費社会 13～14回目：90年代以降の現代 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系68

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 研究員 伊藤 遊			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		二十世紀以降の日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品はもとより、活字記事や広告等から、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、微視的には「マンガ文化のあり方」を、巨視的には「二十世紀以降の大衆文化の有様」の一端を把握することがねらいである。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これをふまえ、受講者全体でのディスカッション、担当教員のコメントを加える。</p>											
【到達目標】											
<p>マンガ雑誌という具体的な素材に実際に触れる機会を持つことで、ポピュラー文化研究における文献調査の方法論を学ぶ。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回：担当教員による講義。現在のマンガ雑誌に関する情報と視点を提供。</p> <p>第3回：担当教員による「京都国際マンガミュージアム」における講義。マンガミュージアム所管のマンガ雑誌資料について解説。テーマ設定についてディスカッション。</p> <p>第4回～第5回：雑誌を使ったマンガ研究の論文を講読</p> <p>第6回～最終回：受講者による発表。（*）</p> <p>（*） 最低1冊のマンガ雑誌を取り上げ、（A）テーマを設定した上で、あるいは（B）指定のテーマに従って、少なくとも5年分を調査の上、そこにおける変化やそのコンテキスト等について分析する。</p>											
【履修要件】											
<p>特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

出席点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表のための文献調査を各自で行うことが必要となる。必要に応じて、担当教員がその調査をサポートする。

(その他(オフィスアワー等))

「京都国際マンガミュージアム」(京都市中京区)での授業を実施する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系69

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森下 達			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		特撮映画論									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本では、マンガやアニメ、ヒーロー番組といった「オタク文化」を、多くの人びとが政治や社会から切れたものとして受容している。そのような領域がいかんして形成されたのかを、『ゴジラ』（1954年）をはじめとする特撮映画作品群と、それらの映画の受容から考えていく。特撮映画こそは、文学者・文芸評論家からSF作家、いわゆる「オタク第一世代」に至るまでさまざまな層の注目を集めたジャンルであり、その受容からは、戦後日本における批評のモードの変化をある程度見て取ることができるだろう。</p> <p>なお、授業内では、実際に映像作品を視聴した上で議論を行っていく。小説作品や批評・論考を事前に読んでもらった上で授業に臨むことを求める場合もある。積極的な授業参加を望みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・特撮映画ジャンルの歴史を学び、ポピュラー・カルチャーを研究する上での基礎知識を獲得する。 ・ポピュラー・カルチャー批評の流れを学び、自分なりの視点で作品や文化現象を語れるようになる。 ・ポピュラー・カルチャー作品と社会との関わりを理解し、自分自身の文化との関わり方を見直すことで、文化への感受性を高めていく。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス：TV以前と以後 第2回～3回 戦後日本におけるSFジャンルの定着：TVメディアとの関係から 第4回～第7回 「空想科学映画」という価値観：『ゴジラ』（1954年）・『空の大怪獣 ラドン』（1956年） 第8回～第11回 文学者・文芸評論家と特撮映画：『地球防衛軍』（1957年）・『モスラ』（1961年） 第12回～第14回 SFから「オタク」へ：キャラクター消費という問題 第15回 まとめ</p> <p>開講日時については、5月中にKULASISを通して連絡する予定である。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への積極的な参加（30％）およびレポート（70％）により評価する。
なお、6回以上欠席したものには単位を与えないので、注意すること。もちろん、すべての授業に出席することが望ましいのはいうまでもない。

[教科書]

授業レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

森下達 『怪獣から読む戦後ポピュラー・カルチャー 特撮映画・SFジャンル形成史』（青弓社）
ISBN:978-4-7872-7392-5

（関連URL）

<https://www.seikyusha.co.jp/bd/isbn/9784787273925/>(上記書籍の情報が記載されている出版社HP)

[授業外学習（予習・復習）等]

シラバスに記してある特撮映画作品について、スタッフやあらすじなど基本的な情報を把握しておくこと。また、『ゴジラ』（1954年）については膨大な数の批評・論考が書かれているので、ひとつだけでもそれに触れ、この映画がどのように論じられているのかを自分なりに考えておくことが望ましい。

それ以外の予習・復習については、授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義なので「オフィスアワー」は特に設けません。質問等がある方はその場で訊ねるようにしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系70

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 研究員 伊藤 遊			
配当 学年	1-3回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マンガ研究ことはじめ：方法論を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>そうした認識に対応する形で、戦後、様々な立場からの「マンガ評論/研究」が試みられてきた。本講義では、マンガを学術的な研究対象とするにあたっての、特に人文・社会学的な方法論を、具体的なマンガ研究論文の講読等を通じて紹介することを目的とする。</p> <p>形式は、担当教員による講義、および受講者によるマンガ研究論文の講読。マンガに関する卒業論文執筆や学会発表など、具体的な課題を抱えている場合は、それらのブラッシュアップの場をすることもできる。</p>											
【到達目標】											
<p>マンガ研究の方法論を体系的に知ることで、ポピュラー文化を対象とする研究のための手がかりをつかんでももらうことを目指す。</p> <p>同時に、プレゼンテーションおよび他人の研究発表に対する評価（コメント）の技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回～第3回：担当教員による講義。学術研究全体におけるマンガ研究の位置付けを解説した上で、マンガ研究の諸方法論を、具体的な研究書などを紹介することで概観する。</p> <p>第4回～最終回：指定されたマンガ研究の論文の講読。担当者が論文の内容を紹介する形で発表、参加者全員でディスカッションする。各論文に対しては、発表担当者とは別に、コメンテータも付ける。1人1回以上は必ず、発表者およびコメンテータをそれぞれ務めることとする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

竹内オサム / 西原麻里・編著 『マンガ文化 55のキーワード』 (ミネルヴァ書房) ISBN: 9784623075409

小山昌宏 / 玉川博章 / 小池隆太・編著 『マンガ研究13講』 (水声社) ISBN:9784801001688

[授業外学習(予習・復習)等]

論文の講読においては、当該論文をあらかじめ熟読してくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系71

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 (有)京都旅企画 代表取締役 滑田 教夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		京都市西山地区の文化観光プロジェクト									
【授業の概要・目的】											
<p>現在の京都市では、東山地区に観光客が集中し、交通渋滞や「京都らしさ」の低下など、さまざまな問題がおこっている。一方、西山地区では、観光客誘致が取り組まれてきたものの、期待された成果が生みだされていない。西山地区の潜在的観光資源を調査したうえで、それを利用した文化観光企画を考案する。</p>											
【到達目標】											
<p>地区の文化的歴史を調査することによりリサーチ力を高め、その歴史を地区の経済的活性化のために利用する工夫を考察することにより企画力を養い、その企画を実際に商品化するプロセスを学ぶことにより提案力を涵養できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 課題あたり 1 ~ 3 週の授業をする。</p> <p>* イントロダクション：「観光を活かした地域づくり」総論 * 宿泊施設の現状と今後の課題 * 文化観光の先例 * 京都市西山地区の観光資源検討 * 西山地区観光客の現状と課題 * 各自が作成した企画案の検討 * 観光商品化へ向けた課題を検討 最終回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（リサーチ力40点、企画力40点、提案力20点）で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）（2）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

西山地区を自身の足で歩き、自身の目で観察してください。

（その他（オフィスアワー等））

受け入れ数5名ほどの少人数演習です。
講義希望者が多い場合は、面接による選抜をおこないます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系72

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールなどについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文（韓国語）を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料（韓国語）を精読します。昨年度は、論文「北朝鮮帰国事業の再照明」、植民地時代に投獄された文学者の日記、京城帝国大学教授の新聞投稿記事の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文・自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます。授業中に指示しますが、与えられた資料を読むだけでなく、資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習Ⅱ）（2）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
毎回プリントを配布して参考文献を紹介します。

[授業外学習（予習・復習）等]

講読・予習については予習を必須とします。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系73

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。											
[到達目標]											
1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める（全15回）。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。できれば沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系74

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。											
[到達目標]											
1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める（全15回）。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。できれば沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系75

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系76

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期に引き続き、下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。日本関係セクション終了後は、アジア関係のセクションに進む予定。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
<p>必須ではないが、前期の同名科目を受講していることが望ましい。（授業は、前期の受講者を前提として進める。）</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末試験は行わず、平常点で評価する。</p>											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系77

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 朴 珍姫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		テレビドラマから考える韓国社会									
【授業の概要・目的】											
<p>近年アジアを中心に韓国のポピュラーカルチャーへの関心が高まっている。人々はそれを「韓流ブーム」と呼び、その中核には「K-POP」や「韓流ドラマ」などのメディアがある。中でも韓国のテレビドラマはそのほとんどが女性をターゲットに、また韓国国内市場で消費されることを前提に制作されており、韓国女性の欲望と社会情勢に非常に敏感に反応し、その時代によって変容してきた。</p> <p>本演習ではテレビドラマ作品やそれに関連する論文、書籍などを資料に韓国社会について考察する。まずその前提知識として講師が韓国社会におけるテレビドラマの形成過程について講義を行い、2～3回に渡って特定の作品を取り上げて分析を行う。受講生はそれを踏まえた上、各自取り上げるメディア作品を選択し報告・議論を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一次資料の分析。 ・映像資料の分析・研究への活用方法を身につける。 ・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回 ガイダンス - 受講者の発表順・日程調整を含む。</p> <p>2～4回 講師による講義 - 韓国におけるテレビドラマの形成過程と作品分析。</p> <p>5～14回 受講生による報告と共同討議</p> <p>15回 議論の総括</p> <p>なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告内容、共同討議への貢献度、小レポート等）で評価する。											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

・映像資料を用いての報告することが必要になる。
必要に応じて担当教員がその調査方法等をサポートする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系78

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学衣笠総合研究機構 井上 明人 客員研究員			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		コンピュータ・ゲーム研究の現在									
【授業の概要・目的】											
<p>コンピュータ・ゲームの文化的隆盛を背景として、コンピュータ・ゲームについての人文学的な議論は、この20年で急速にすすんできた。一体、ゲームの何が重要な人文学の問題となりうるのか。近年の国際的なゲーム研究の動向を踏まえつつ、特に着目されている論点を紹介しつつ、共に議論をしていきたい。</p> <p>本講義はコンピュータ・ゲームに関わる研究とはいえ、人文学や批評に親しみのある者にとっては、ポストモダン論やジェンダー論、文化的抵抗など、どこかで聞いたことがあるであろう話を聞くことになるはずだ。欧米圏のゲーム研究の進展の半分近くは、こうした既存の文化研究の文脈を引き継いでいる。ただし、他方では、コンピュータ・ゲームという領域に独自の魅力を含む論点も数多く含んでいる。受講者にはその「差分」を味わいながら、議論に加わってもらいたいと思う。</p> <p>なお、なるべく日本語の文献を多くするが、中には邦訳のないものも含まれるため、若干の英語文献も含まれる。</p> <p>評価については、最終レポート（4000字以上）の内容を基に行うが、どのような内容を予定しているかについて、途中で3回ほど計画を提出してもらおう。詳細な評価基準については、授業第1回目でルーブリック表の形で告知する。</p>											
【到達目標】											
<p>発展しつつあるゲーム研究の様々な論点を理解し、その視点から現在の文化状況についてメタ的な考察が展開できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.文化資源としてのゲーム 2.ルールとフィクション 3.ポストモダンの社会論とゲーム 4.メディアミックス 5.手続き的レトリック 6.シチュアショニスト 7.カウンターゲーミング 8.アジールとしてのゲーム・カルチャー 9.メタ・ゲーム 10.エルゴード的文学性 11.アイデンティティ 12.ジェンダーとサブカルチャー 13.語ることと当事者性 14.社会的活用 15.総括 											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポート（3回、各10点）
最終レポート（1回、70点）

【教科書】

必要な資料はパワーポイント、配布資料等で適宜提示する。

【参考書等】

（参考書）

松永伸司『ビデオゲームの美学』（慶應義塾大学出版会）ISBN:978-4-7664-2567-3 英語圏でのコンピュータ・ゲームに関する人文系研究を本格的にフォローしている唯一の和書です。

イエスパー・ユール 著、松永伸司 訳『ハーフリアル 虚実のあいだのビデオゲーム』（ニューゲームズオーダー）コンピュータ・ゲーム研究のなかで、近年もっとも参照される文献の一つです。

文献ではなくゲームになるが

『My Child Lebensborn』

『Florence』

『Coming Out Simulator』

『this war of mine』

などのゲームに少し触れておいてもらえると、コンピュータ・ゲームの議論の広まりを少し理解してもらえらると思う。

【授業外学習（予習・復習）等】

最終レポートに関していきなりとりかかるのではなく、段階的に計画を練ってもらう必要があるので、授業の各段階で、文献調査・仮設の設定・再調査のプロセスに時間を使ってもらいたい。

各回の授業で、あらかじめ触れておいてほしい作品等については指示する。

（その他（オフィスアワー等））

授業担当者への連絡はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系79

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（卒論演習） Media and Culture Studies Media and Culture Studies				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金3,4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文作成演習									
【授業の概要・目的】											
卒業論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
【到達目標】											
卒業論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>1 回目：卒論予定テーマについて全員が、その要略を説明する。</p> <p>前期の2 回目以降：各回とも、1 名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。</p> <p>後期の初回：全員が卒論の中間報告をおこなう。</p> <p>後期の2 回目以降：各回とも、1 名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、論旨について報告する。当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進めるうえでの課題を考える。</p> <p>最終回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（60点）と、卒論中間報告（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南部アフリカ現代史の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>南部アフリカ（南アフリカおよび周辺諸国）の、アパルトヘイト体制崩壊以降の歴史を、背景となるそれ以前の時期の歴史を含めて、扱う。</p> <p>南部アフリカ諸地域は、第二次世界大戦後にアパルトヘイト体制を本格化させた南アフリカを中心に、世界が脱植民地する時期に、いわばそれに逆行するかのよう、植民地主義と人種主義のさらなる激化を経験した。1990年代以降、その体制が崩壊し、現在に至るまで、大きな社会変動が生まれている。その変動の中で当該社会がどのような課題に直面し、それらをどのように乗り越えようとしているのかを多面的に取り上げる。それを通じて、植民地主義とアパルトヘイトとはどのようなものであったかを考え、さらには、ポストコロニアリズムとコロニアリズムとの関係に考察を及ぼせる。</p> <p>以上のような南部アフリカ社会の検討は、世界各地での脱植民地化や、紛争後社会の体制移行の問題についての理解をも深めることに通ずるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・南部アフリカのアパルトヘイト体制とその前史としての植民地主義について、基本的な事実を理解する。 ・1990年代以降の南部アフリカ社会の変動にかんする基本的事実、人々の抱えている課題とその克服の試みについて、世界史の中に位置づけて理解する。 ・南部アフリカ社会の変動についての理解を通じて、現代世界の抱える基本的な問題としての帝国主義と脱植民地化についての理解を深め、「現代」を考察する視座を得る。 											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 南部アフリカの現代から世界の現代史を考える 2 前史 植民地主義とアパルトヘイト 3 アパルトヘイト体制の崩壊 4 ANCとネルソン・マンデラの思想 5 新憲法 6 真実和解委員会の活動 7 真実和解委員会の残したもの 8 土地改革の理念と構造 9 土地改革の実際 10 ネオリベラリズムと社会的公正 11 伝統的権威と近代民主主義 12 伝統的権威と伝統法 13 伝統とジェンダー 											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

- 14 「脱植民地化」をめぐる論争
15 まとめとフィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末の試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系81

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵迢 由香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論 2 . 日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える 3 . 戦後日韓関係の展開 1 : 日韓相互認識の変遷 4 . 戦後日韓関係の展開 2 : 日韓交渉と日韓条約 5 . 戦後日韓関係の展開 3 : 戦後補償問題の進展 6 . 労働力・兵力強制動員問題 1 : 動員政策の展開と朝鮮社会 7 . 労働力・兵力強制動員問題 2 : 日本における地域運動 8 . 労働力・兵力強制動員問題 3 : 韓国における戦後補償運動の展開 9 . 労働力・兵力強制動員問題 4 : 戦後補償裁判 10 . 労働力・兵力強制動員問題 5 : 近年の状況・まとめ 11 . 日本軍「慰安婦」問題 1 : 「慰安所」制度の構造 12 . 日本軍「慰安婦」問題 2 : 「慰安婦」制度の実態 13 . 日本軍「慰安婦」問題 3 : 「慰安婦」運動の展開 14 . 教科書問題 15 . まとめ <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(40点)： コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。

レポート(60点)： 講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系82

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>各1～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男らしさと名誉 2. 身体の再発見 3. 植民地状況における男らしさ 4. 戦争と男らしさ 5. 戦争とセクシュアリティ 6. 戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に配布するレジユメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

(参考書)

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』 (藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系83

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系84

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、将来の食と農の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系85

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 日本的な文化の語り ・ 明治維新と桜 ・ 近現代の桜 ・ 廃仏毀釈と文化財の破壊 ・ 古都奈良の明治維新 ・ 古都京都の明治維新 ・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・ 京都御所から京都御苑へ ・ 明治維新と陵墓 ・ 正倉院御物の成立 ・ フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ ポストン美術館と日本美術 ・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・ 「日本美術史」と文化財保護 ・ 帝室博物館と古都奈良・京都 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

【授業外学習(予習・復習)等】

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者を行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	文化財と政治										
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政 ・ 吉野山・奈良公園の近現代 ・ 嵐山・嵯峨の近現代 ・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮） ・ 黒板勝美とハイマートシュツ（郷土色保存） ・ 帝国における文化財 ・ 近現代の陵墓 ・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟 ・ 内務省と国立公園 ・ 国宝保存法と文部省の文化財行政 ・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査 ・ 伝説・物語と文化財 ・ 戦後改革と文化財の誕生 ・ 世界遺産と日本の文化財保護法 ・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

【授業外学習(予習・復習)等】

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系87

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 古代中国経済と商業 3. 隋唐帝国経済と商業 4. 宋代商業の発展と仲介者 5. モンゴル時代のユーラシア商業 6. 明代経済の展開と牙行（1） 7. 明代経済の展開と牙行（2） 8. 東アジア海域交流と仲介者 9. 倭寇的状況と仲介地（1） 10. 倭寇的状況と仲介地（2） 11. 明清交替期の海域世界と仲介者 12. 清代海上貿易の展開と仲介者 13. 海域近代の始まりと仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。											
【到達目標】											
近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
1. ガイダンス 2. アヘン貿易と仲介者 3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 5. 苦力貿易と客頭（1） 6. 苦力貿易と客頭（2） 7. 開港場貿易の発展と行棧（1） 8. 開港場貿易の発展と行棧（2） 9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1） 10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系89

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。 ・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。 											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。</p> <p>評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系90

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」 マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5章 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

[教科書]

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）

[参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

[授業外学習（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系91

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従い、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦 『中央アジアを知るための60章』 (明石書店) ISBN:978-4-7503-3137-9 (中央アジア研究の入門書)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-025027-2 (ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol. 2, No. 1 (1999)』 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール』 酒井啓子・臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系92

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの1960年代									
【授業の概要・目的】											
<p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p>											
【到達目標】											
イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<p>(1)さまざまな1960年代論（1回） (2)「豊かな社会」という前提（1回） (3)若者の台頭（1回） (4)文化革命の諸相（音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等）（2回） (5)ビートルズとロックの覇権（2回） (6)「許容する社会」の到来（1回） (7)性的解放（1回） (8)1968年（1回） (9)人種問題（1回） (10)モラリズムの反撃（2回） (11)二大政党の1960年代（1回） (12)総括（1回）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系93

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		サッチャー時代のイギリス									
【授業の概要・目的】											
今年度の授業は昨年度後期の「サッチャリズム序説」の増補版である。イギリス現代史上の決定的な転換期といわれるサッチャー時代（1979～90年）はイギリス社会をいかに変え、その変化は今日のイギリスをいかに規定しているのか、経済、社会保障、労使関係、外交、といった主要な政策領域に加え、サッチャーが折に触れて強調したモラルの改革をも視野に収めて検討することが主たる課題となる。											
【到達目標】											
サッチャリズムの時代がいかなる意味でイギリス現代史上の転換期であったか、第二次世界大戦から今日に至る長いパースペクティブの中で把握する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1)マーガレット・サッチャーの形成（1回） (2)「コンセンサス」批判（1回） (3)モラルの改革（2回） (4)経済政策（2回） (5)労使関係（2回） (6)福祉国家の解体？（2回） (7)アメリカとヨーロッパ（2回） (8)権威主義的リーダーシップ（1回） (9)サッチャー以降のサッチャリズム（1回） (10)総括（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

オーウェン・ジョーンズ(依田卓巳訳)『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系94

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア(ジョージア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2,3回：「半アジア人」</p> <p>第4,5回：露土戦争</p> <p>第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教</p> <p>第8,9回：油田とマンガン鉱山</p> <p>第10,11回：マルクス主義サークル</p> <p>第12,13回：義賊と革命</p> <p>第14回：1905年</p> <p>第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系95

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
[授業の概要・目的]											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
[到達目標]											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
[教科書]											
<p>プリントを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

基礎現代文化学系96

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 江田 憲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党「理論」闘争史									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、中国近現代、とくに共産党史を対象領域とし、その理論闘争の歴史、それが現代の社会状況といかなる連続性を持つのかについて考察する。</p> <p>中国共産党の歴史過程について史料と研究にもとづいた批判的理解を可能にすることが目的である。</p> <p>なお、講義形式の授業のほか、適宜、受講者が従来の研究論文を要約して受講者が報告する発表形式の授業をも行う。</p>											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史過程と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 中国共産党史と「理論」</p> <p>第2回 中国社会主義の源流 五・四上海ストライキとアナルコ・サンジカリズム</p> <p>第3回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(1)</p> <p>第4回 陳独秀の社会主義受容とアナボル論争(2)</p> <p>第5回 中国国民革命論の展開 瞿秋白の「一回革命論」の問題性</p> <p>第6回 中国共産党史へのスターリン主義の登場 瞿秋白の例</p> <p>第7回 中国共産党史の党内抗争(1) 糾弾用語としての「路線」の登場</p> <p>第8回 中国共産党史の党内抗争(2) 党内粛清と毛沢東独裁</p> <p>第9回 中国共産党史における都市と農村(1) 「都市中心論」は存在したか？</p> <p>第10回 中国共産党史における都市と農村(2) 李立三と毛沢東の戦略</p> <p>第11回 中国共産党の党内民主 意思決定における論争を中心に</p> <p>第12回 中国革命におけるトロツキズム運動 陳独秀の思想と行動</p> <p>第13回 陳独秀の「最後の見解」をめぐって</p> <p>第14回 中国共産党理論闘争史序説</p> <p>第15回 中国共産党理論闘争史総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポート											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

あらかじめ配布する資料がある場合は、かならず読解して出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系97

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 江田 憲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、東アジア、とくに中国の政治制度や思想を対象領域とし、研究論文・研究書、一次史料を素材としたゼミ形式の授業を行う。 先行研究の取り扱いや一次史料の収集・利用についての必要な陶冶を行い、研究発表の訓練を行うことが目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>現代東アジアの諸問題を歴史的な視点から批判する視座を獲得し、国境を越えた問題意識の共有を可能とする端緒を構築する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ガイダンス 中国現代政治史概説 中国現代政治史についての研究紹介 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 研究論文・研究書を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 一次史料を素材としたゼミ 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポート											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

あらかじめ配布する資料がある場合、必ず読解して出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系98

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系99

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系100

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際文化学研究所 教授 長 志珠絵			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近代における「戦争」と文化をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
19-20世紀の近代国民国家は「国民」形成の中核に「戦争」をめぐる文化装置を必要とした。またこの問題は「国民」をめぐる文化政治と密接に関係するため、植民地支配や総力戦体制下での変容に加え、さらに戦後史への射程を必要とする。戦争認識をめぐる文化研究、社会史研究、ジェンダー研究などの方法論や、帝国と戦後を架橋する空襲・防空研究典型的な歴史事象から事例を取り上げ史料論としても言及しながら、19世紀末から1970年代にいたる戦争と文化をめぐる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
日本近代における戦争と文化をめぐる研究上の成果や論点、史料状況について具体的な知識を獲得するとともに、研究方法や分析視点を習得することで、近い過去の論争的課題についての考察力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
*各項目の講義の回数は固定したものではなく、講義の進行状況や受講者の理解の程度に応じて、変動することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入-戦争の想起と文化をめぐる研究動向 2 「国民化」の時代と「戦争」メディア<2回> 3 戦争記憶の展示と同時代教育<2回> 4 「国民」とは誰か? -兵士のジェンダーと植民地支配<2回> 4 防空言説と国民像の変容<3回> 5 占領と戦争経験・戦争像<2回> 6 戦後史のなかの空襲の記憶と記録<2回> 7 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の発言・コメント紙回答50% レポートとテスト50%などを総合的に評価する。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示するほか、適宜史料レジュメ等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系101

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
日本の社会運動史について講義を行う。時期は、明治期から敗戦後までである。本講義の目的は、近現代日本の社会運動に関する通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史をより複合的・重層的に捉える視点を育んでくれるとありがたい。											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容に変更あり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各回のテーマに関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		島根大学法文学部 名誉教授 竹永 三男			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「行き倒れ」の近代史 近代日本における行旅病人・行旅死亡人に関する歴史的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>一般に「行き倒れ」と言われる行旅病人・行旅死亡人の救護・取扱については、120年前の明治32年（1899）法律第93号「行旅病人及行旅死亡人取扱法」で規定されている。同法は、若干の文言修正を経て今も現行法として機能しているが、その第一条では、行旅病人・行旅死亡人について、「此ノ法律ニ於テ行旅病人ト称スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト称スルハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂フ」と定義している。</p> <p>本講義の題目である「『行き倒れ』の近代史」とは、この行旅病人・行旅死亡人を歴史研究の対象として正面から取り上げ、近代日本における「行き倒れ」をめぐる問題群 即ち、その実態と属性、市町村における救護・取扱の実際、市町村の救護責任等を規定した法制度の構造とその変遷、「行き倒れ」を生み出す日本社会の特質等々の解明を、全国の県庁文書・町村役場文書の具体的分析によって行うというものである。講義では、その分析の実際を関係史料を提示しつつ具体的に提示する。また、受講生にも、講義で提示する関係史料に基づいて、行旅病人・行旅死亡人に関する分析を行ってもらう。</p> <p>以上のことにより、「行き倒れ」という個別的・具体的な事象の分析を通して、日本の近代社会の歴史的特質を究明するという近代史研究の方法とその実際の理解に至ることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>「行き倒れ」を素材とした日本近現代史研究、とくに近現代の日本社会と法制度の歴史的研究の視角と方法、「行き倒れ」関係史料とその分析の実際を理解し、実際にぶんせきできるようになることを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画は次のとおりとするが、実際の授業では、集中講義という授業形態を活かして、各主題を適宜統合・分割して講述する。</p> <p>第1講 はじめに 「行き倒れ」をめぐる問題群とその歴史的研究の課題 第2講 「行き倒れ」関係史料の検討 府県行政文書・市町村役場文書・政府文書・統計資料 第3～6講 近現代の日本における行旅病人救護法制の成立と変遷 1)近世における「行き倒れ」対応 2)「行旅病人取扱規則」「行旅死亡人取扱規則」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」 3)府県における「行旅病人救護・行旅死亡人取扱規則」の成立と変遷 4)東京府における「行き倒れ」対応規則の成立と展開 第7～12講 近代日本における「行き倒れ」の実態とその救護 1)行旅病人・行旅死亡人の統計的検討 2)行旅病人の「逋送」「行旅病人及行旅死亡人取扱法」以前の行旅病人救護 3)日露戦後の福島県における「行き倒れ」の様相とその救護 4)市町村役場文書にみる「行き倒れ」とその救護 5)女性と子どもの「行き倒れ」 6)「行き倒れ」人とその病 第13講 「行き倒れ」の救護・対応法制の比較史 植民地下の朝鮮とイングランド</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

第14講 おわりに 「行き倒れ」からみた日本社会の歴史的特質
第15講 受講生による「行き倒れ」分析の発表

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

- 1) 受講生が少人数の場合
中間レポートとその発表 (50点)
最終レポートとその発表 (50点)
 - 2) 受講生が多数の場合
中間レポート (40点)
最終レポート (60点)
- いずれも、講義で提示した分析視角・方法 (の批判的検討) に基づいて、受講生が取り上げた史料を精確に分析し、問題を掴み出しているかを評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業題目に関連する主題について、講義担当者 (竹永) が発表している研究論文を参考論文とする。論文題目・掲載雑誌等はCiNii等で確認すること。

【授業外学習 (予習・復習) 等】

授業で配付する史料を事前・事後に検討すること

(その他 (オフィスアワー等))

- 1) 受講生にはレジュメに加え、資史料を配布するが、初回授業の出席者数によりその後の授業用の印刷部数を確定するので、初回授業には必ず出席すること。
- 2) 集中講義のためオフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系103

科目ナンバリング		U-LET35 38444 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習 I A) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史学演習 A：現代史研究と史料									
【授業の概要・目的】											
実際に史料を読むことによって、現代史学研究の基礎となる史料の操作方法を学ぶ。 この演習IAでは、日本近現代史研究における史料の調査・読解を実践する。											
【到達目標】											
歴史学研究の学問的な基礎は史料批判にあり、収集した史料から信頼できる情報をとりだすための手順を身につけなければ、それ以上の研究は不可能である。実際に史料を解読しながら、初歩的であれ史料の操作法と史料批判の方法を身につけることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
(1) 日本近現代史料の概観(第1回～第3回) (2) 日本近現代史研究の精読(第4回～第7回) (3) 日本近現代史料の精読(第8回～第15回)											
(1) では日本近現代史料について、さまざまな形態とそれぞれの特徴、所在と調査方法を学ぶ。 (2) では日本近現代史研究の重要文献を精読するとともに、その文献で使用されている史料の「追試」を行う。 (3) では史料の批判的読解のトレーニングとして、日記や書簡、公文書などを取り上げて精読する。											
以上は参加者の報告および討論を主として進行する。											
【履修要件】											
演習 I は現代史学専修必修科目である。原則として3回生のときに、A、B各2単位を履修しなくてはならない。 留学等の特別な事情のある場合に限り、2学年以上にわたって履修することができるが、その場合にも、卒業までにA、B各2単位、計4単位を履修しなくてはならない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって総合的に評価する。											
----- 現代史学(演習 I A)(2)へ続く -----											

現代史学(演習 I A)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う文献・史料は、全員が必ず読んでおくこと。報告者以外も、文献・史料に関する質問などを準備して討論に参加することが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系104

科目ナンバリング		U-LET35 38444 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習 I B) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永原 陽子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史学演習 I B : 現代史研究と史料									
【授業の概要・目的】											
I Bでは、公刊されている英国議会資料を用いて、史料としての性格を理解し、その読解と分析、史料批判の方法、活用の可能性について学ぶ。											
【到達目標】											
歴史学研究の学問的な基礎は史料批判にあり、収集した史料から信頼できる情報を取り出すための手順を身につけなければ、それ以上の研究は不可能である。実際に史料を解読しながら、初歩的であれ史料の操作法と史料批判の方法を身につけることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
<p>「英国議会資料」British Parliamentary Papers はイギリス議会に提出された資料の総体であり、イギリス史・イギリス帝国史にとどまらず、世界各地の現代史の研究に役立てることのできる貴重な歴史史料である。本学図書館に所蔵される資料実物にも触れながら、データベース化された資料を用い、本資料を現代史研究に活用する方法について学ぶ。</p> <p>資料の基本的な性格や利用方法の概容を学び、また実物資料を図書館で手にしてみたのち(第1~2回)、参加者は自身の関心に基づいて一つまたは複数の資料を選び、その資料の作られた文脈や背景と内容、そこから読み取れることについて発表し、それについて議論する(第3~15回)。</p>											
【履修要件】											
<p>演習 I は現代史学専修必修科目である。原則として3回生のときに、A, B各2単位を履修しなくてはならない。</p> <p>留学等の特別な事情のある場合に限り、2学年以上にわたって履修することができるが、その場合にも、卒業までに異なる教員の担当するAまたはBを2単位ずつ、計4単位、履修しなくてはならない。</p> <p>その他、特別な事情がある場合は、予め教員と相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する。											
----- 現代史学(演習 I B)(2)へ続く -----											

現代史学(演習 I B)(2)

[教科書]

授業中に指示する
初回授業で文献リストを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で取り上げる文献・史料を、全員が必ず予め読了しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系105

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する(全15回)。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力(第二外国語履修程度)が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳 (その他(オフィスアワー等)) 毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系106

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党史資料選読									
[授業の概要・目的]											
中国現代史の史料一般についての基本的な知識を得たうえで、中国共産党史に関する中国語資料を精読する。中国共産党史に関する資料を読むことによって、中国革命に対する理解を深める。											
[到達目標]											
中国語資料・中国共産党史資料の扱い方、特徴などを理解し、中国現代史を研究するにあたっての史料の読解、操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
中国共産党史関連資料のうち、『建党以来重要文献選編』から関連文献を選んで精読する(全15回)。具体的には、党の諸会議で決議された文書、党中央から各組織に対して出された指示など、主として政治運動に関する文献を取り上げる。必要に応じてそれら文書の背景となるコミンテルン資料も読む。なお、史料の内容や背景を理解するには、一定の中国革命史・現代史にかんする全般的基礎知識が必要なので、講義形式の解説を必要に応じて加えることとする。 初回と2回目の授業で史料について解説を行った後、3回目以降は担当者を決めて史料を読み進めていく予定である。なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定は変更することがある。											
[履修要件]											
現代中国語の資料をもちいるので、中国語についての理解力・読解力(第二外国語履修程度)が履修要件となる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、十分な予習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系107

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイヴでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系108

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期に引き続き、下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションの後半（pp.1265-1398）を読み進めていく。日本関係セクション終了後は、アジア関係のセクションに進む予定。 Foreign Relations of the United States, 1950, Volume VI: East Asia and the Pacific. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
<p>必須ではないが、前期の同名科目を受講していることが望ましい。（授業は、前期の受講者を前提として進める。）</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末試験は行わず、平常点で評価する。</p>											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系109

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。											
[到達目標]											
1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力											
[授業計画と内容]											
初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める（全15回）。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する											
[参考書等]											
（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。できれば沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系110

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 特定助教 富永 望			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		屋良朝苗日誌を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>屋良朝苗日誌の輪読を行う。手書きの日記という一次史料の読解に取り組むことで、歴史上の人物を生身の人間として見直すとともに、史料から事実を読み取る力を身につける。また、高校までの歴史の授業で習う機会に乏しい沖縄の現代史について理解を深める。</p>											
[到達目標]											
<p>1．一次史料の読解能力 2．沖縄戦後史の理解 3．人物・事件を確定し、わかりやすくまとめる能力</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスを行い、輪読の担当を決定する。2回目以降は実際に輪読を進める（全15回）。自分の担当部分だけではなく、他の人の担当部分も予習してくることが望ましい。また、担当部分で初出の人名や事件があった場合は調べてきて、当日説明すること。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（輪読での報告内容、授業内での発言回数など）											
[教科書]											
テキストは授業中にコピーを配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書） 櫻澤誠 『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社）</p>											
[授業外学習（予習・復習）等]											
他の受講者の担当分も読んでおくこと。できれば沖縄の近現代史について予習しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系111

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールなどについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文(韓国語)を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料(韓国語)を精読します。昨年度は、論文「北朝鮮帰国事業の再照明」、植民地時代に投獄された文学者の日記、京城帝国大学教授の新聞投稿記事の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文・自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます。授業中に指示しますが、与えられた資料を読むだけでなく、資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回プリントを配布して参考文献を紹介します。

[授業外学習(予習・復習)等]

講読・精読については予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系112

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化からみる集合的 記憶 と集合的 夢									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定のメディア文化を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査・資料読解を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定 （1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有 （2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～6回目：戦争の 記憶 7～10回目：原爆の 記憶 10～11回目：原子力の 夢 12～13回目：宇宙開発の 夢 14～15回目：豊かな生活の 夢 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当するメディア文化(映画・マンガ・文学)を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。
そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系113

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決める）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力・読解能力・整理能力を養う。また個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。</p> <p>加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～5回目：戦後復興期 6～9回目：高度経済成長 9～10回目：70年代の家族 11～12回目：80年代以降の消費社会 13～14回目：90年代以降の現代 4 議論の総括とフィードバック（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。
そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系114

科目ナンバリング		U-LET35 28448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 朴 珍姫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		テレビドラマから考える韓国社会									
【授業の概要・目的】											
<p>近年アジアを中心に韓国のポピュラーカルチャーへの関心が高まっている。人々はそれを「韓流ブーム」と呼び、その中核には「K-POP」や「韓流ドラマ」などのメディアがある。中でも韓国のテレビドラマはそのほとんどが女性をターゲットに、また韓国国内市場で消費されることを前提に制作されており、韓国女性の欲望と社会情勢に非常に敏感に反応し、その時代によって変容してきた。</p> <p>本演習ではテレビドラマ作品やそれに関連する論文、書籍などを資料に韓国社会について考察する。まずその前提知識として講師が韓国社会におけるテレビドラマの形成過程について講義を行い、2～3回に渡って特定の作品を取り上げて分析を行う。受講生はそれを踏まえた上、各自取り上げるメディア作品を選択し報告・議論を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一次資料の分析。 ・映像資料の分析・研究への活用方法を身につける。 ・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回 ガイダンス - 受講者の発表順・日程調整を含む。</p> <p>2～4回 講師による講義 - 韓国におけるテレビドラマの形成過程と作品分析。</p> <p>5～14回 受講生による報告と共同討議</p> <p>15回 議論の総括</p> <p>なお、授業の進捗と受講者の状況によって、上記の予定を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告内容、共同討議への貢献度、小レポート等）で評価する。											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

・映像資料を用いての報告することが必要になる。
必要に応じて担当教員がその調査方法等をサポートする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 38452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習ⅢA) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
(授業の概要・目的) 演習Ⅲは、現代史学専修に所属する学部生(3、4回生)、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムとなることをねがっている。 授業は原則として、参加者が順番に自分の行っている、あるいは行おうとする研究について発表し、それをもとに授業参加者が討論する形式で行う。発表者は他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。 また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。 演習Ⅲは専修のカリキュラムの中でも中心となる授業であるので、所属学生の必修科目となっている。4回生には卒論演習にかわる演習であり、卒業論文作成のために必ず履修しなければいけない。また、3回生にとっても必修科目である。4回生になってから「卒業研究をどのように始めていいのかわからない」といった状況に陥るのを防止するためにも、プレ卒論演習という位置付けを演習Ⅲはもっている。大学院生や4回生の研究報告に接することで、自分の卒業研究をどのように準備すればいいのかを学んでほしい。											
【到達目標】											
1. 卒業を予定している4回生以上の学生にとっては、すぐれた卒業論文の完成が到達目標である。											
2. 学部3回生にとっては、卒業研究のテーマを発見すること、さらに卒論演習でよい報告をするための学習方法や報告の方法を身につけることが目標となる。											
【授業計画と内容】											
最初に4月に大学院修士課程に入学した大学院生が、自分の卒論をもとに研究発表を行い、自分の卒論作成の経験を語る。 次に何人かの大学院生が、自己の研究内容を報告し、現代史研究の実例と研究報告の方法について、参考となる手本を示す。 そのあと、卒業予定者が自分の卒業研究の研究計画を順番に報告する。 3回生はⅢAにおいて、授業に参加するが、報告は求められない。 (全15回)											
【履修要件】											
原則として、演習ⅢA、B各4単位、計8単位を卒業までに履修する必要がある。 必修科目のため、これを履修しないと卒業できない。 留学等の特別な事情がある場合に限り、A、Bの組み合わせについて例外を認めることがある。											
----- 現代史学(演習ⅢA)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III A)(2)

1

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加態度などの平常点によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

4回生以上の卒業予定者は、卒業論文の作成に向けて、自分の研究を日々進めなければならない。毎日がそのための予習であり、復習でもある。
3回生には、III Aにおいては4回生以上の行う発表を聞くなかで、自分の研究内容を報告する日に備えて、研究発表の方法を学ぶことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系116

科目ナンバリング		U-LET35 38452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習IIIB) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 永原 陽子 文学研究科 准教授 塩出 浩之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習IIIは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は原則として、参加者が順番に自分の行っている、あるいは行おうとする研究について発表し、それをもとに授業参加者が討論する形式で行う。発表者は他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告を聞くことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p> <p>演習IIIは専修のカリキュラムの中でも中心となる授業であるので、所属学生の必修科目となっている。4回生には卒論演習にかわる演習であり、卒業論文作成のために必ず履修しなければならない。また、3回生にとっても必修科目である。4回生になってから「卒業研究をどのように始めていいのかかわからない」といった状況に陥るのを防止するためにも、プレ卒論演習という位置付けの授業となる。大学院生や4回生の研究報告に接することで、自分の卒業研究をどのように準備すればいいのかを学んでいってほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．卒業を予定している4回生以上の学生にとっては、すぐれた卒業論文の完成が到達目標である。</p> <p>2．学部3回生にとっては、卒業研究のテーマを発見すること、さらに卒論演習でよい報告をするための学習方法や報告の方法を身につけることが目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>卒業予定者が順次、自分の卒業研究の本格的な中間報告を行う。卒業予定者の報告は11月祭の頃までに終え、そのあとは卒業論文の作成に専念する。教員より卒業論文執筆の要綱を説明する。</p> <p>卒業予定者の報告が終了したあとは、3回生が卒業研究の研究計画をたてるための準備作業として、予備的な報告を行い、大学院生や教員が適宜アドバイスを与える。その作業を通じて、3回生は次年度の演習IIIで報告する卒業研究の研究計画を作りあげていく。 (全15回)</p>											
【履修要件】											
<p>原則として、演習III A、B各4単位、計8単位を卒業までに履修する必要がある。</p> <p>必修科目のため、これを履修しないと卒業できない。</p> <p>留学等の特別な事情がある場合に限り、A、Bの組み合わせについて例外を認めることがある。</p> <p>11月祭期間中またはその前後に卒業論文執筆予定者の報告を集中的に行う。3回生、4回生とも、これに出席しなくてはならない。</p>											
----- 現代史学(演習III B)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III B)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加態度などの平常点によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

4回生以上の卒業予定者は、卒業論文の作成にむけて、自分の研究を日々進めなければいけない。毎日がそのための予習であり、復習でもある。
3回生は、III Bにおいては、簡単な研究報告が求められるので、そのための十分な予習が求められる。また、授業で受けたさまざまな指摘やアドバイスを反映させるためにも、復習は欠かせない。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。